

# 大阪医科大学学報

Osaka Medical College News

108号



法人合併特別企画

特集

最高の出会い、  
最強のチーム。

学校法人 大阪医科薬科大学

大阪医科大学は、

平成28年4月、

大阪薬科大学との法人合併により、

医学、薬学、看護学の連携による

日本有数の医療系総合大学をめざし、

新たにスタートしました。

大阪医科大学



## CONTENTS

## 法人合併特別企画

- 4 理事長ご挨拶
- 5 副理事長ご挨拶
- 6 学長対談
- 8 高槻中学校・高等学校 校長インタビュー
- 9 大阪医科大学病院 病院長インタビュー  
大阪医科大学 看護学部長インタビュー
- 10 大阪医科大学 仁泉会理事長インタビュー  
高槻市長祝辞
- 11 平成28年度 事業計画
- 16 平成28年度 法人予算の概要について
- 18 OMC TOPICS
  - 平成27年度 ゴールドマン・サックス留学支援奨学基金授賞式
  - 平成28年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰
  - 平成27年度 田中忠興国際交流基金授賞式について
  - 第11回 日本医学シミュレーション学会「優秀演題賞」の受賞報告
  - 平成27年度 第II回学位記授与式
  - 第1回「教育・研究会」を振り返って
  - 大阪医科大学と高知県との医師派遣の基本協定締結式
  - ベトナム国家大学ハノイ校とベトナム日本大使館を訪問して
  - 名誉教授・功労教授称号授与
  - 地方創生くまどりアトムシンポジウム  
～BNCTと熊取町のさらなる発展のために～
  - 中央手術棟定礎除幕式挙行
  - 大学安全対策室 報告～教育研究環境安全管理確認の巡視について～
  - 第2回 大阪医科大学附属病院JMECC講習会の開催報告
  - 第2回 大阪医科大学末梢血管超音波トレーニングセミナーの開催報告
  - 第6回 周術期危機管理セミナー(医療ガス編)の開催報告
  - イギリス グラスゴー大学での臨床実習を終えて
  - タイ マヒドン大学で行われた国際大会に参加して
  - 海外交流支援制度 支援金2016年度支給
  - 全国医学生生理学クイズ大会準優勝!
  - 平成28年度 新入生学外合宿
  - 第9回医工薬連携の会開催
  - 平成28年度 職員入職式
- 26 平成27年度 卒業式
- 27 平成28年度 入学式
- 28 第110回 医師国家試験結果とその対策について  
看護学部国家試験対策を振り返って
- 30 病院長就任のご挨拶  
副院長紹介
- 31 新任教授紹介
- 33 退任のご挨拶
- 34 人事
  - 38 2016年度 大阪医科大学LDセンター研修・講演会予定表
  - 39 平成28年度 大阪医科大学市民公開講座
  - 40 科学研究費交付状況について
  - 42 研究助成金の内定・採択について
  - 42 寄付金報告
  - 44 高槻中・高だより
  - 45 大阪薬大だより
  - 46 部署紹介 ボランティア支援室  
ボランティア支援室ニュース
  - 47 水彩画と私
  - 48 中央手術棟紹介

大阪医科大学 総合研究棟▶

## 表紙の紹介

作品名：Book-Tower (ブックタワー)

作者：Kubach-Wilmsen-Team (ヴォルフガング・クーバハ [1936～2007]、アンナ・マリア・クーバハ＝ヴィルムゼン [1973～])

作品には、世界中のさまざまな石を使うことにより、その国々のメッセージを「ページのめくることが出来ない」本に託して「人類の歴史・地球の歴史を感じてもらえたら」というクーバハ夫妻のメッセージがこめられています。

本学では本館・図書館棟竣工を祝って建設業者から寄贈を受け、1994年に設置されました。以来図書館のモニュメントとして親しまれ、記念撮影の格好のスポットにもなっています。

引用：

・アートジェーン (閲覧：2016年04月16日) <http://www.artgene.net/detail.php?EID=5774>・ギャラリー 新橋東京 (閲覧：2016年04月16日) <http://www.gallery-nll.com/artists/kubach.html>

## ■前号のプレゼント当選者(前号クイズの正解は「しめの」)

山崎 春美さん(三木市) 田中 清美さん(高槻市) 和田 敬子さん(京都市)  
倉内 道治さん(奈良市) 古川 哲夫さん(高槻市) 富永 知里さん(堺市)  
富永 果歩さん(高槻市) 川崎 秀次さん(寝屋川市) 伊藤 正尚さん(高槻市)

## ■法人広報室より■

4月1日の法人合併により、あらたに法人広報室が立ち上がりました。今号から学報の編集を担当します。より良いものにするために多様なご意見を頂ければ幸いです。

## 就任のご挨拶

## 教育の高質化と永続に向けて



学校法人 大阪医科薬科大学 理事長  
植木 實

学校法人大阪医科薬科大学は、平成28年4月1日に大阪医科大学と大阪薬科大学の法人合併により、大阪医科大学、大阪薬科大学、高槻中学校・高等学校を有する医療系総合大学・中等学園として誕生しました。この法人合併の成就是、両学校法人の関係各位をはじめ多くの方々のご努力とご協力のおかげと心より感謝申し上げます。

本学校法人は、寄附行為第3条に「この法人は、教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、学校等を設置し、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、創造性と人間性豊かで人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。」と掲げており、人間性豊かな良質な医療人及び次世代のグローバル人材の育成を使命としています。

学校法人の設置の目的は大きく3つあり、公共性、自主性及び継続性であります。特に法人の継続による安定した高質な教育は極めて重要であり、それも永遠のものでなければなりません。

この度の法人合併は、経営基盤の拡大・安定と効率化をもたらすとともに教育・研究・医療領域のさらなる進展が期待され、これらは両大学及び中等学園がこれまでの実績を踏まえ、それぞれの自主性・特色を活かし補完・協力することで達成され、より一層の成長が図られると考えます。事業主体である本学法人は、永続による安定した高質な教育を行うために、これからも確固たるガバナンスのもとに法人基盤の一層の安定化を図ってまいります。同時に、教職員、学生・生徒の皆さんには、SSD、即ちStaff Self-Development（自己研鑽・啓発）の実践をお願いしておりますが、皆さん一人ひとりの努力の積み重ねによる能力向上が、両大学・中等学園及び病院群を骨太化すると信じています。

本学校法人は、これからの社会情勢の変化も見据えながら、医学・薬学・看護学が連携・融和する先進的医療体制の構築と学際的教育・研究及びチーム医療教育を推進し、一方では探究心を伴う高度な中等教育を行うなど魅力ある学校作りを行って、教育、研究並びに医療を中心とするCenter of Communityとして、また本邦でも特色ある最優の医療系総合大学・中等学園への発展を目標として邁進してまいります。

今後とも、濱岡副理事長と一致協力しながら両大学の交流と融和を進め、次の目標である大学統合に向けてさらに努力してまいりますので、皆様におかれましては一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

就任のご挨拶

## 総合医療教育の実現をめざして

学校法人 大阪医科薬科大学 副理事長  
濱岡 純治



私は、この3月まで学校法人大阪薬科大学の理事を8年、理事長を2年7か月務めてきましたが、今回の法人合併により、学校法人大阪医科薬科大学の副理事長に就任いたしました。私自身は、学報の法人合併特集号の略歴にある通り、経済学部出身で医療については全くの素人ですが、会社経営に携わった経験を生かしていければと考えています。

法人合併については、平成22年の秋頃から合併担当理事として協議に関わってきましたので、5年半もの年月が経過して法人合併が実現したことになり、本当に感慨深いものがあります。

合併協議を振り返ってみると、お互いが譲り合いの気持ちを持つとともに、将来のあるべき姿をイメージし、それを実現させたいとの想いで協議を進めてきたことが、相互の信頼関係の確立につながり、合併の成功をもたらしたように思います。

新たにスタートする学校法人大阪医科薬科大学は、大阪医科大学、大阪薬科大学、高槻中学校・高等学校を傘下に持ち、医学、薬学、看護学の連携による特色のある大学作りをすることを目的とし、医薬看の連携によるチーム医療を見据えた総合医療教育の実現を目指してまいります。そして、法人合併の次には、大阪医科大学と大阪薬科大学との統合が、大きな課題となります。しかし、これについては、お互いの信頼感が醸成されてきた段階で実施することとしています。

今後は、新法人成立によるメリットをいかに早期に出していくかが重要になってきます。教育研究面での具体的な取り組みの検討、新しい人事制度の検討、勘定系システムの統合など取り組むべき課題は山ほどあります。これらの課題を新しい理事会で迅速に意思決定していくことが何より必要になりますが、そこでも医大、薬大それぞれの利益代表の立場で主張をするのではなく、法人全体としてどうあるべきか、そのために今何をしなければならないかとの観点で議論をすることが不可欠であります。この時に合併交渉の中で培われてきた相互信頼関係が生きてくるものと確信しています。

法人合併は手段であって、目的ではありません。我々は今ようやくスタート地点に立ったとの想いで、新法人の課題解決や合併目的の実現に向けて着実に取り組んでいくことが何よりも重要です。私は、副理事長として植木理事長をしっかりと支えていき、新法人の永続的な発展に向けて、全力を傾注していく所存ですので、宜しく願いいたします。

# 対学 談 長



大阪薬科大学  
学長 政田 幹夫

大阪医科大学  
学長 大槻 勝紀

2016年4月1日からの法人合併をソメイヨシノが満開で祝ってくれました。「医学・看護」「薬学」の理想を追いそれぞれ歴史を積み上げてきた、大阪医科大学と大阪薬科大学。将来の大学統合も視野に、大学相互の交流もスタートします。そこで、大槻勝紀・大阪医科大学学長と政田幹夫・大阪薬科大学学長の「法人合併・学長対談」を大阪医科大学応接室で開き、両大学の進むべき道を大いに語り合ってもらいました。

(対談中の敬称は略しました)

## 「医薬看」で、より高度なチーム医療推進

### 期待大、「医薬看」融合

——法人合併がスタートしました。

大槻・大阪医科大学学長の率直な思いを聞かせて下さい。

大槻 大阪医科大学は1927年創設で、西日本の私立医大で最も古い医学部です。本学カリキュラムの特徴の一つとして、「医看」融合教育を推進していますが、「医看」の合同講義や実習などを増やすだけでなく、多職種連携を目標としたチーム医療に関するカリキュラムを検討していく必要があります。今後「薬」学と一緒になることで、「医薬看」の視点共有が実現でき、患者中心のチーム医療推進の大きな力となります。

### 改革プラン、着実に

——政田・大阪薬科大学学長の思いはいかがでしょうか。

政田 大阪薬科大学は1904年創設

——政田学長は昨年1月、大槻学長は昨年6月に就任されて以来、ともに次々と大学改革計画を提示され、スピード感を持って実行されています。政田学長、4月1日から、大阪薬科大学で臨床薬学教育研究センターが



## 改革共有、合併の花咲かす

ターゲットしましたね。

政田 着任以来の大きな構想でした。ここを臨床教育研究の主要拠点にしようと考えています。学内外から公募した教授3人、准教授2人、講師1人の6教員体制で、当初は臨みます。そして、大阪薬科大学と大阪医科大学との架け橋にしたいと、位置づけています。それは、臨床教育を実践していく中で医薬看の連携教育は必須条件であり、法人合併によりその環境が整ったといえると思います。また、臨床現場を体験することにより、はじめて理解しうる薬学を学ぶ上で、必ず身に付けてもらいたい指標「高度な知識や技術の習得だけではなく、高い生命倫理観を育てる」ことに、資すると期待しています。

——大槻学長は今年1月27日、教職員・学生を集めた第1回の「教育・研究集会」を開かれ、数多くの学長改革プランを解りやすく発信されました。大槻 集会のテーマは「世界有数の医療

系大学を目指して」です。学長抱負「夢を語る」で、5つの改革方針【今行なうべき改革（Innovation）▽教育研究のグローバル化（Globalization）▽社会貢献活動と社会的責任（Social Contribution）▽基礎から臨床への橋渡し（Transition Research）とオンラインワン研究拠点形成▽情報発信と共有化（Open Mind）】を伝えました。5つの方針には、それぞれ

習を現在の46週から70週程度に増やすことが要求されています。また授業時間外での「学修」時間が不足している学生が増えています。そのため、昨年からPA会の協力を得て1・2年生全員にiPadを配布し、予習、復習やレポートの提出で学修時間を増やすようにしています。

### 高知、ベトナム連携

——両法人の合併により、様々な事が加速度的に進んでいきますね。

大槻 そうです。これからもスピード感を持って動かすことも大事です。大阪医科大学は高知県内にも医師の派遣をしています。Social Contributionの観点から地域医療に取り組むことは、将来、少子超高齢化時代を迎える高規において本学が「知（地）の拠点」として重要な意味を持ちます。過日、高知県の尾崎正直知事と会談した結果、夏季休暇時に医薬看の学生を派遣して地域医療を体験することを計画しています。また、Globalizationですが、ベトナム国家大学を訪問して「医薬連携」の合意を得ましたので、政田学長にも今後ご協力を願うつもりです。

### 刺激で胸高鳴る大学

——本日は、伝統ある両大の学旗を背に、両学長に語り合っていたいただきました。向かって右側の大阪医科大学は3



色の上部に梅の刺繍、下に大阪医科大学の校名。左側の大阪薬科大学は鷹脂色の中央に「薬」の刺繍、下部に大阪薬科大学の校名です。将来、両旗がどのような旗に一本化されるのか、期待が高まりますね。

政田 その通りです。「医薬看」の合同講義」や実習の実現、そして大槻学長から示された社会貢献活動など、学長同士のやりとりの中で、一層学生が胸を高鳴らせる内容にしていきたいですね。

大槻 学生に常に前向きな刺激を与え、医療に対するモチベーションを高め続けたいですね。そのひとつとして、来年1月にiPS細胞でノーベル賞を受賞された京都大学iPS細胞研究所所長の山中伸弥教授を招き、学内で講演していただきます。

大阪医科大学学長 大槻 勝紀  
 【略歴】大阪医科大学卒業、同大学院医学研究科修了（医学博士）。  
 昭和55年7月同大学助手、同大学講師を経て、昭和63年2月オーストラリア国立大学特別研究員。平成元年4月大阪医科大学助教授、平成3年4月大阪医科大学教授、平成10年1月大槻副学長に就任。平成27年6月から大阪医科大学学長。

大阪薬科大学学長 政田 幹夫  
 【略歴】京都大学薬学部卒業、同大学医学部附属病院薬劑部薬劑師（薬学博士）、昭和57年城西大学講師、昭和60年摂南大学助教授、平成元年京都大学胸部疾患研究所附属病院薬劑部部長、平成3年福井医科大学医学部附属病院薬劑部部長、その後同大学教授、医学部附属病院薬劑部部長、統合により役職名変更により福井大学医学部教授、医学部附属病院薬劑部部長を経て、平成27年1月から大阪薬科大学学長。



高槻中学校・高等学校  
校長 岩井 一

今回の法人合併に先立ち、2014年度から大阪医科大学の仲間入りをした高槻中学校・高等学校。医科大から徒歩8分の同校校長室に、岩井一校長を訪ね、新しい時代への期待と運営方針を聞かせてもらいました。同校は文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）、スーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受ける一方、今年4月から校舎全面改築が始まります。来春から男女共学を取り入れ、一層の高大連携をここに、文武両道の舞台で生徒の可能性を开花させたいという、岩井校長の教育論はとても熱く感じました。

（インタビューは敬称略）

## SSH、SGH、文武両道

### 新しい時代へ

—— 将来は両大学の統合に進みます。まず合併への期待から、うかがいます。  
岩井 もちろん、合併は大歓迎です。「医看」に「薬」が加わることで、当校生徒に刺激を与えていただけの指導者層がとて幅広くかつ厚くなりま

むということですね。  
岩井 その通りです。今も申し上げたように、高校生たちが受ける知的刺激の幅が大きく広がります。来年度から男女共学が始まり、中学1年から女子生徒の入学がスタートしますが、女子生徒にとつても、新たに「薬」が加わることの意味は大きいと思います。そして、さわらぎキャンパスでは校舎の新築が始まり、新しい時代に入ります。

### 校長先生との対話、頻繁に

—— 「校長先生との対話——お母さんだけの学校説明会」があるそうですが、どんな狙いで始められ、どのような説明会になっているのでしょうか。

岩井 中学進学の相談です。小学6年生を子に持つお母さん6人を招き、この校長室でお話しをします。年に5、6回開き、ネットで公募しますが、毎回あつという間に定員となります。この対話には本校中学1、2年生のお母さんも1人同席し、アドバイスしてもらいます。英語授業の見学してもらいます。途中、紅茶とショートケーキをお出しするなど、ぎつくばらんな対話を心がけています。

### 「中3」3カ月留学

—— 校舎正面に、中学アメリカンフットボール部全国大会優勝の垂れ幕がありました。勉強はもちろん、スポーツなどクラブ活動も盛んなのですね。

岩井 文武両道を掲げています。アメリカンフットボール部については、15年前から競技経験のある指導者を教員採用するなど、部活動を強化してきました。

—— 学校案内に「世界の変化の中心に」「変わり続ける。挑み続ける」とのキャッチフレーズが踊ります。具体

的にお教え下さい。

岩井 中学校での英語授業は、英会話3時間を含めて週8時間。関西でこれだけの時間数で実行しているところはあまりありません。このカリキュラムで身につく英語力を武器に、例えば中3でのカナダ・アメリカ提携校3カ月留学が可能となります。6カ年一貫教育のとても大きなメリットでもあります。また、中学校では英語検定で優秀な成績をおさめ、文部科学大臣賞を受賞しました。

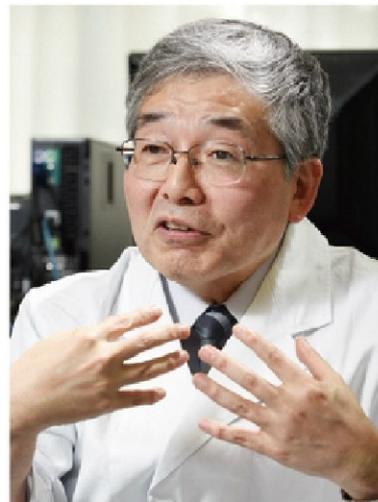
### 音叉の発想

—— 校長は「メイドイン高槻」の良さを見てほしい」と言われますが、多感な時期の生徒を教育するポイントは何か。

岩井 「音叉（おんさ）の発想」です。理科の実験で音が共鳴することを学ぶあの「音叉」です。授業はもちろん、知的刺激や様々な提案に、しなやかに共鳴する生徒を育てたいのです。そういう力が身につけば、ぎつかけさえつかめば生徒たちは自力で上のステージへ登っていくことができます。知的刺激発信のため、外部から講師を招いて、学年単位の講演会を開いているのも、その一例です。

## 「高大連携」で、さらに推進

高槻中学校・高等学校校長 岩井 一  
〔略〕 歴 昭和49年 高槻中学校・高槻高等学校  
専任教諭（理科・化学）就任。教務副部長、教務部長代理、教務部長、教頭を経て、平成22年から現職。



大阪医科大学病院  
病院長 内山 和久

法人合併と同じ4月1日に赴任された内山和久・大阪医科大学病院長（一般・消化器外科教授。862床を持ち、29の診療科と14の中央診療部門、2000人を超す病院スタッフを束ねる第27代病院長です。病院3階の院長室で、法人合併はじめて大阪医科大学の未来像などについてインタビューしました。合併によりさらなる発展を期すとともに、求められる「高度先進医療」に一層邁進し、患者さんに信頼される病院運営を目指すという抱負に、医療人の温かく強い信念を感じました。（インタビューは敬称略）

### 信頼される病院づくり

——法人合併を受け、共同授業への歩みや病院見学など動きが出ていますね。

内山 もともと、教員・学生の皆さんが病院薬剤部などへ見えていました。これからさらなる発展が期待されます。合併法人は「社会・環境の持続的な発展のための責任ある行動」を理念として提唱しています。患者さんに信頼される魅力ある病院づくりを進めます。

——施設拡充の面でも、病院は大きく進化しますね。

内山 今年3月に6階建ての中央手術棟が完成し、2、3階に20室の手術室と16床のICUを備えています。また3階にはハイブリッド手術やロボット手術室など最新技術も採用しました。5年後には最新設備を導入した12階建てメインタワー病棟が完成する予定です。こ

の中に臨床研究発展のために、診療で得た凍結細胞のデータベース（バイオバンク）を構築したいと考えています。

——バイオバンクについて詳しく教えてください。

内山 一般・消化器外科教室では、取り組みが始まっています。バイオバンクはヒトに由来する細胞などをデータとして収集し保存する施設です。これを病院全体で実施でき

### 「薬」合流で新たな一歩

ば、膨大なデータが蓄積されることになり。これは後世に連綿と引き継がれる有用なものであり、臨床において新たな治療法の確立、新薬の研究・開発、先進医療の促進に貢献すると考えています。まさに、バイオバンクは大阪医科大学にとっての

「大切な財産」と言い切ることが出来ると思います。

### 「高度先進医療」に貢献

病院長 内山和久  
〔略〕 昭和59年 大阪医科大学卒業後、和歌山県立医大にて講師、助教授、准教授を経て、平成23年に本学医学部 教授、平成28年4月より現職。



大阪医科大学  
看護学部長 優子 林

2010年4月に大阪医科大学看護学部が創設されて6年、

学部長として新学部を牽引します。その前が開設準備室で奔走、文字通り看護学部の生き字引的存在です。4月上旬、桜が残る看護学部キャンパスで新年度初講義の後、学部長室でインタビューしました。法人合併による

「医」「看」「薬」の融合を大歓迎しており、互いに刺激しあうことにより「看」を学ぶ学生たちの発言能力進化への強い期待が印象的でした。（インタビューは敬称略）

### 連携医療の学び

——学部開設から6年。常に先頭で引っ張ってこられました。

林 2014年度に看護学研究科（大学院）も開設。ある程度軌道に乗りました。後は、学部の特長の一層の明確化です。

——これまで「医」「看」の融合を推進してこられました。

林 同じ土壌で教育を受ける、それはチーム医療につながります。

### 「医・看・薬」、融合 刺激し合い、創造力アップ

びを、大学時代に実現できます。

### 発言できる看護職

——看護学部の学びの基本として、「4C（ケア、チャレンジ、チェンジ、コネクト）」を掲げておられます。

林 なぜ大学へ来て4年間看護学を学ぶのかを明快にしたい。思考力▽疑問を持つ力▽創造力を育みたいのです。そして「しっかりと自分の考えを発言できる力」を育みたいのです。

「医」との融合教育でいうと、昨年度、両学部1年生を対象とする授業科目「医療人マインド」が開始されました。将来「薬」も加わると思います。

看護学部長 林 優子  
〔略〕 聖路加看護大学大学院看護学研究科博士後期課程修了。博士（看護学）  
医療法人神奈川腎疾患総合医療センター 看護学部長を経て、岡山大学医療技術短期大学部教授、岡山大学大学院保健学研究科教授、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻教授、平成22年より大阪医科大学看護学部教授・学部長（専門：成人看護学）。



一社)大阪医科大学仁泉会  
理事長 河野 公一

大阪医科大学の力強い「後押し機関」で、卒業生の「心の止まり木」である同窓会「仁泉会」そのトップ、河野公一理事長にインタビューしました。

### 効果に大きな期待

——法人合併は、大きな決断と実行ですね。同窓会トップとしても随分、お骨折りなされたと思います。

河野理事長 大阪医科大学は来年が創

設90周年。卒業生は90000人を超えました。同窓生は米・英・中国・台湾など世界各地に雄飛しています。法人合併は高校3年生が年々少なくなるのが背景にあり、法人として大きな選択をしました。同窓会としても、その決断と、もたらされる成果に大きな期待をかけています。「医薬看」一体化に

## 「医薬看」医療の総合化に期待

よる医療の総合化、チーム医療態勢の強化、予防医療の推進など、素晴らしい果実が実ると思います。

### 予防医療に大きな貢献

——具体的に教えていただけますか。

河野理事長 大阪医科大学はこれまで

も、「医看」による地域医療現場での実践を掲げてきました。臨床診療においてに成果を上げているとの自負があります。大阪医科大学が戦列に加わっていただけることで、医療のチーム力が質量ともに大きくアップします。さらに「薬」の存在は、今後ますます必要となる予防医療への貢献に極めて大

きい力を発揮してもらえということですから、ますます深まる交流

### ますます深まる交流

——キャンパスが同じ高槻市内、両大学の間にはもともと交流があると、聞いています。



高槻市長  
濱田 剛史

本年4月1日、学校法人大阪医科大学と学校法人大阪薬科大学の伝統ある両法人が、新たに学校法人大阪医科大学としてスタートされたことを、心からお祝い申し上げます。

大阪医科大学は、昭和2年に日本で最初の5年制医学専門学校である大阪高等医学専門学校として創立された後、常に時代をリードし、医学・看護教育、医療分野における今日の確固たる地位を築かれました。また、附属病院におかれましても、市民に安全で質の高い医療をご提供いただくとともに、本市の地域医療の向上に多大なるご貢献を賜っております。

大阪薬科大学は、明治37年に大阪道修業学校として創立された後、日本最初の女子薬学専門学校を擁する道修女子薬学専門学校を経て、その後現在の

大阪薬科大学として発展されてきました。本市に移転開設された平成8年以降、地域に根ざした大学として、豊かで健康的な社会の実現に多大なるご貢献を賜っております。

本市の誇りともいえるべき両法人のこの度の合併が、今後の更なる飛躍発展の契機となるとともに、医学・薬学・看護学の連携と強い絆のもとで、社会

河野理事長 はい、かくいう私が大阪薬科大学の倫理委員会の委員を務めさせて頂きました。また大阪薬科大学を終えてから大阪医科大学で学ぶ学生もいます。国際交流プロジェクトでも、大阪医科大学・高槻高校に大阪薬科大学が加わって台湾の大学と交流してきた実績もありますので、法人合併はこのような下地もあり必ずうまく行きますよ。さつきよく同窓会同士の交流も実施したいですね。

一般社団法人大阪医科大学仁泉会理事長 河野公一  
(略) 歴 大阪医科大学卒業大学院医学研究科博士課程修了(医学博士)。連合王国ロンドン大学産業医学研究所に留学後、大阪医科大学衛生学公衆衛生学教室助手、講師を経て、福井医科大学環境保健医学助教授、昭和61年大阪医科大学衛生学公衆衛生学教室助教授。平成8年同大学教授11年厚生労働省大阪労働局労働衛生指導医委嘱、平成25年4月 大阪医科大学名誉教授(現在に至る)

に貢献する人材が今後も数多く高槻の地から羽ばたいていかれることをご期待申し上げます。

本市といたしましても、学校法人大阪医科大学が立地されるまちとしての強みをいかし、更なる高槻の発展を目指してまいりますので、今後とも市政へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びとなりますが、学校法人大阪医科大学のご発展を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 平成28年度 事業計画

## I 背景と方針

### 1 事業計画立案の背景

#### 1. 世界の状況

平成27年度の世界経済の成長率見通しは+2.9%である。米国景気が年度後半緩やかな拡大基調に回復、欧州景気も底堅い回復が続き、中国景気も減速に歯止めが掛かり始めた。反面新興国景気が通貨安や資源安の中で復調が遅れ、世界景気の重石となっている。

平成28年度の経済成長率は+3.3%の見通しである。世界景気は緩やかな拡大が見込まれる基調の中、今後の景気に影響を与える下振れリスクが色々と考えられる。具体的には、米国で長期金利の引上げが決定し、今後株価の急落で調整圧力が掛かり世界経済成長の失速が促されること、中国の経済成長率が急激な減速傾向にあること、ギリシャのユーロ圏離脱や英国のEU離脱により金融市場が混乱すること、供給過多に伴い原油価格が下落することなど、引き続き注意を要する。また、「IS」によるテロの勃発、難民問題、ロシアとEUの対立、中国の領海問題、北朝鮮の暴挙など世界情勢を揺るがす不安定要素は多く、世界情勢の見通しは予断を許さない。

#### 2. 日本の状況

い。このような中でも観光を目的とする人の移動は絶えることはなく、特にアジアの国々の国際化が求められている。

超少子高齢化が進む中、平成27年度の本の景気は、最終的な実質GDP成長率は+0.6%と小幅のプラス成長が予想され、景気拡大のペースは緩やかで成長に転じたとは言いがたい。雇用はやや良好な情勢を反映して賃金が増え直し、コスト減少を背景に企業業績の改善が続くという好材料はあるが、それが個人消費や設備投資を押し上げ経済の好循環に結び付く力としてはまだ弱い。今期国内消費を多少とも持ち上げたのは、外国人旅行者の旺盛な消費があった恩恵であろう。平成28年度の国内景気は、良好な雇用情勢が維持され名目賃金も増加し、リストラ効果により高体質となった企業の業績改善が見込まれ、それらによる個人消費や設備投資の押し上げが強まると期待される。実質GDP成長率は前年比+1.0%のプラス成長が期待される。見通しでは、年度前半は緩やかな持ち直しが続き、後半からは海外経済の回復を背景に輸出の増加ペースが高まっていくことや平成29年4月の消費税率の引き上げを睨んだ動きが家計部門にも表れることで、景気の持ち直しペースが高まる可能性は高

い。また政府消費については、高齢化が進展する中、医療費を中心に増加傾向が続く公算が大きい。

### 3. 本法人を取り巻く状況

平成28年度の診療報酬は集中、縮小方向にあり、また超少子化の中で学校法人や国立大学法人の統廃合が期待されている。その状況下、現状の本法人を取り巻く特に重要な要素となる状況として、医療環境の現状と方向性、本学の新棟建築計画、新しい専門医制度、並びに高大接続改革について記載する。

#### 〔1〕平成28年度診療報酬改定

平成28年度の診療報酬改定が、次のように決まった。

I. 総額改定幅 ▲0.84% うち  
II. 診療報酬本体 +0.49% III. 薬価等 ▲1.33%

#### 〔2〕医療環境の現状と方向性

##### (1) 現状認識

日本社会は超高齢化が進み、平成25年の超高齢化率は24.1%まで上昇。内閣府の高齢社会白書では「我が国は世界のどの国も経験したことのない高齢社会を迎えている」と述べている。先進国の平均寿命は80歳(平成23年度)で、一方日本は83歳(平成26年度)、平均健康寿命は73歳(平成25年度)、1,000

人当たりに対する死亡率も世界で低位グループにある。また、人口一人当たりの医薬費購買額も、日本は世界3位でOECD平均よりもかなり多い。一方でジェネリック医薬品のシェアは28%、OECD平均の44%よりも低い(平成25年度)。厚労省はジェネリック推進に取り組み、平成30年度までに普及率60%を掲げている。

一方、日本は平均在院日数が長く、急性期病床ではOECD平均の2倍(同中で1位)。患者の入院区分を正確に分類し、かつ料金をケジュールを見直すことで長期入院を減らすよう勧告された。また平成25年の社会保障国民会議の最終勧告では、急性期病床への平均入院日数を12〜16日迄に短縮し、代わりに介護での居住系サービスの充実化及び在宅系サービスの充実化を提案されている。厚労省は、療養病床の老人保健施設や居住系サービス施設への転換を推進している。またOECDの調査では大病院の方が医師・病院共に良いパフォーマンスを上げており、M&Aで医療機関の大規模化を進めるよう勧告している。

##### (2) 今後の方向性

これからの国の経済や財政で国民の生存権や医療を受ける権利を維持し、それに必要な費用を如何に充てるかが重大な問題となる。その問題を解決するために、医療費の伸びの抑制、医療の効率化、医療保険制度の財政的強化を含めた医療改革が必要であり、我が国の医療のあるべき姿を踏まえて、医療政策を総合的に実施していかなければならない。については、次の3点が課題となる。

i. 利用者の視点に立った効率的で安心、かつ質の高い医療の提供

- ・医療安全確保対策の推進

- ・情報提供の推進

- ・IT化

- ・医療機関の機能分化

ii. 健康寿命を延ばし、生活の質を高める保健医療サービスの提供

- ・生涯を通じた健康作り、介護の充実

- ・予防と治療の医学研究推進と成果の活用

iii. 国民に信頼される持続可能で安定的な医療保険制度の構築

- ・安定的な高齢者医療制度構築

- ・診療報酬や薬価制度見直し

- ・医療保険財政安定化

### [3] 本学の新棟建築計画

今後本学建物整備を更に進める為、これまでの経緯並びに今後の対応を掲出する。

(1) これまでの経緯

① 昭和のマスタープランと建築規制：本学法人の新制大学建物整備は、昭和30年代の病院建物計画が嚆矢で、当時は建物高さ規制で敷地に広配置とすることとなり、同56年の病院6号館完成を以て病院整備は一応段落した。

② 平成の容積率問題：その後平成2年総合研究棟、同6年本館図書館棟完成後に旧さわらぎ校地キャンパスの本部キャンパスへの移転と看護基礎教育の大学化の為の校舎建築を同時検討したが、その時本部キャンパスの容積率は19.0%であり、それら校舎建築は不可能だった。

容積率は19.0%であり、それら校舎建築は不可能だった。

病院42床(含HCU 4床)、5階：病院44床、6階：機械室である。

③ 都市再生緊急整備計画：平成12年に北西キャンパス、翌年には看護学部設置を前提に北キャンパスを買収し将来に備えた。他方新

③ 今後の新棟建築計画

新病院建物の建替検討の大凡マスタープランは次の通りで、臨床講堂棟及び病院5号館を解体、中高層新棟を建築してから、次に病院6号館を改修、病床再編を行う。次に中央診療棟及び病院3号館を解体、中高層の新棟を建築し、最後に病院外来棟及び1号館・2号館と管理棟・西管理棟を解体、外来及びアメニティを拡大する。以上の構想で基本計画を立案しているところである。

病院や新講義実習棟建築に備え本部キャンパス内の容積率緩和の為、平成16年に都市再生緊急整備地域の指定を受けた。

④ 病院建物の改修：病院新館建設や建物耐震化等の整備には大規模投資と時間を要するので、病院建物はまず患者アメニティや診療機能性を高める為、同年以降病院機能評価の認定取得と併せ、病棟・外来ゾーン等改修整備を段階的に進めた。

⑤ 新病棟と新講義実習棟の建築：同年に西キャンパス取得と同時に、本部キャンパスは整備地域に指定され容積率が40.0%となり、喫緊課題の病院7号館と新講義実習棟を建築した。

### [4] 新しい専門医制度

厚労省の「専門医の在り方に関する検討会」が平成25年1月に開催、翌年5月専門医認定等を行う第三者機関「日本専門医機構」が創設、新専門医制度は平成29年開始するスケジュールが示された。平成27年度から初期臨床研修を始め、平成29年度から専門医研修に入る医師が新制度の対象となる。新専門医制度は、今後の本邦の医療提供体制の在り方を変え得る大きな改革で、同制度は初期研修を「幅広い診療能力」を身に付けることを目標とした制度として作られる。医師養成の在り方も変わるものと思われる。

会が認定する学会専門医制度が乱立し専門医の質の低下懸念が生じ、患者にも専門医が必ずしも理解された受診指標にもならず、専門医取得医師に特別なインセンティブはない等の課題がある。

(2) 制度改革の基本理念

今回の制度改革の理念は、以下の通りである。

① 専門医の質が担保可能

② 患者の信頼と受診の良い指針

③ 専門医が「公の資格」で国民に広く認知・評価

④ 「プロフェッショナル集団としての医師」が誇りと責任を持ち、患者の視点に立ち自律的に運営

(3) 専門医制度の在り方

今後の専門医制度の在り方の主な内容は、次の通りである。

① 制度は二段階(基本領域とサブスペシャリティ領域)

② 認定は各学会でなく中立的な第三者評価と認定、研修施設のサイトビジットを実施

③ 総合診療専門医を基本領域の位置付け

④ 制度を見直し中立的第三者機関が認定する広告のみ可能

⑤ 新制度の実施に際しては地域医療への十分な配慮

### [5] 高大接続改革

(1) これまでの専門医制度

従来の専門医制度は、各学会が独自で制度設計を行い専門医として認定してきた。学

高大接続改革は、高等学校教育改革、大

学教育改革及び大学入学者選抜改革をシステムとし一貫した理念下、一体的に行う改革である。全体を通じ一人一人の「生きる力」「確かな学力」を育み、その結果として実り多い幸福な人生を実現し、社会の持続的な発展に貢献できる人材を輩出することを目的とする。

### (1) 高等学校教育改革

これからの時代、知識の伝達だけに偏らず、社会との関わりを意識した教育のプロセスを通じ、①基礎的かつ十分な知識・技能の習得、②自ら解を見出していく思考力・判断力・表現力等の能力、③主体性を持って多様な人々と協働し学ぶ態度、の所謂「学力の3要素」を育てなければならない。また多面的評価の推進を図るため「高等学校基礎学力テスト(仮称)」が新たに創設される。こうして育まれた一人一人の資質・能力が、大学入学希望者は各大学の個別選択や、大学入学希望者学力評価テスト(仮称)を通じて多面的に評価し大学進学後更にその資質・能力が向上・発展されるようにする。

### (2) 大学教育改革

大学教育では、受験生が大学入学以前に培った「学力の3要素」を基に、大学で学ぶ意欲を持つ学生が国内外の社会で主体的に協力し生活・仕事することを引き出す学びの場を作り、十分な能動的学修とそれを支える知識・技能を獲得できるようにするものである。そのために、各大学が、「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」、「教育課程編成・

実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」、「入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)」の一体的な策定を行い、三つのポリシーに基づき新たな時代の大学教育を受けられるようにする。これらの対応は平成30年度に受審する医学教育分野別評価においても求められている。

### (3) 大学入学者選抜改革

個々の大学は入学希望者が培ってきた「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する方法に転換し、特に大学入学以前にどのような力を総合的に培ってきたか、その力をアドミッション・ポリシーに基づき評価して選抜する方法を実現する。また各大学は国が行う「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」を活用する。

## 2 中期計画と平成28年度の事業項目

### 1. 立案の方針

平成28年度事業立案の方針も、本法人寄附行為第3条の目的、「この法人は、教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、学校等を設置し、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。(平成26年4月1日改正)」に基づき、世界や日本を取り巻く変化の激しい情勢を展望しつつ、2年後の90周年事業への基盤固め、そして記念すべき創立100周年への飛躍、具体的には「最優

の医療系大学・学園」を目指し、新病院群の完成並びに法人合併後の躍進に向けて、それが実現できる事業計画を立案する。

### 2. 概要

平成28年度の事業計画は、同年度から4年間(平成31年度迄)の中期計画項目を示し、診療報酬の改定に合わせて2年後にその見直しを行うこととする。

平成28年度の中期計画については、従来掲げてきた重点項目である、①法人合併後の着地 ②財政基盤 ③教育・研究 ④診療 ⑤学校体質強化・その他の項目を引き継ぎ、かつ2年毎の診療報酬改定に当たる年度は各項目での中間の見直しを行うこととする。

#### ① 法人合併後の着地

平成28年4月1日付で学校法人大阪薬科大学と法人合併し、「学校法人大阪医科薬科大学」となった。今後は両大学が合併効果を最大限に発揮できるように、コラボレーションしていかなるべきではない。その為には、合併後の合同委員会などの機会を上手く活かし、業務の改革や経費の削減などを実施する。

#### ② 財政基盤

ここ数年本項目については、教職員全員の意識向上と協力もあり、順調に行われているが、この項目を揺るぎないものとするのが本学業務推進の基礎となるため、引き続き事業計画の最重要の項目として、財政基盤の強化に邁進する。特に、本学総収入の7割強を占める医療収入の安定的な確保を目指

す。28年度の医療改定も本学にとって大きなマイナス面は生じさせないものと思われ、これまでと同様に新および延入院患者数を増やし、効率の良い医療を実践することによって、医療収入の安定的な確保を行うため、以下の方策を講じる。

1つ目は、前年度に病院耐震化補助金助成を受け病床稼働を19床減少させたが、28年度はそれをカバーするため病床稼働率は94%を、平均在院日数は13.9日を目指す。

2つ目は、毎半期ごとに継続中の病院経営改善委員会における各診療科ヒアリングの実施で、病院運営の効率性を改善し更なる収益向上を実現する。

3つ目は、地域連携の拡充を図り、外来診療から入院治療そして退院(転院・在宅)へとスムーズな流れを再構築する。

4つ目は、平成28年4月に正式にオープンする中央手術棟を有効に活用、稼働させる。中央手術棟は手術室20室、ICU16床、HCU4床を先進医療の実践の場として稼働を始め、手術件数の増加や複雑係数及び効率係数を見据え、特定機能病院としての機能を十分に発揮して収入の大幅増加を図る。

支出割合の大きい人件費の抑制としては、中央手術棟稼働などの背景があり27年度は看護師等の新採用を増員したが、28年度はその分の新採用を減らす予定である。また通常の人件費増は勘案するが、極力増額要因の絞り込みと人事制度改革の中でその増加を抑える。経費については、病院収入増による医療材料費増並びに消費税支払

いの増加等を見込み予算計画を立てて、その全体の予算統制を確実に行う。

③教育・研究関係

医学教育に関しては、平成29年度に日本医学教育評価機構(JACME)の国際的認証評価の受審を目指して、前年度には第1〜6学年のカリキュラムの改革の準備を行った。引き続き平成28年度は、基礎研究等の振興、研究医養成のための教育プログラムの充実、地域・社会から求められる医療人材の養成等の問題が山積している。多様化する社会に対応する教育を目指し、その向上を実現するため、カリキュラムを再編して臨床力に重点を置いた教育を行う。加えて、医学教育の国際化やグローバル人材育成を実施していく。

世界的な教育情勢では、バカロレアや医学教育の国際認証など国際水準を定める動きが本格化している。

また、新たにスタートする新専門医制度への対応を行う。

高大接続改革は、大学としては医学部・看護学部の「高大接続に関する委員会」において、実施の具体的イメージを構築する。

看護学教育については、保健師コースの定員を再検討するなど教育の効率化を図り、前期完成させた大学院博士前期課程に続き、平成28年度は後期課程の完成に向けて着実に教育研究活動を実践する。

研究活動については、科研費等の補助金獲得の取り込みを図る研究応募に注力すると共に、引き続き研究倫理と公的研究費の適正使用に関するFDとSDを行う体制を定

着させるための施策を行う。

高槻中学校・高等学校については、今後の学齢人口の激減を鑑み、また男女共同参画社会の現状を踏まえ、平成29年度に男子校から男女共学校へ移行するための準備を推進する。また、高大接続改革実行プランの実現に向けて国内外で活躍する次世代のリーダーの育成を目指すGLコース、SSH・SGHに対応するGSコース、GAコースなどを設置した。これら、一連の教育改革を効率よく実施するために決定したキャンパス整備構想に従い、第二段階となる高校校舎の建築に取り掛かる。

④病院・診療関係

新病院全体の将来構想第一期工事として平成27年1月には中央手術棟が竣工し、既存棟から一部の機能を移転させ平成28年4月から本格稼働する。今後の将来構想実現の主軸となる病院メインタワー建設の建築内容や時期等の構想を具体的に確定させる。

更に医療収入増加に繋がる医療機器や更新が必要な機器を積極的に導入する。

前年度開設した「三島南病院」においては、充実した診療体制を構築し、経営の改善に取り組み。

BNC Tについては、その診療棟の着工となり、運営財団も立ち上がり、施設を管理する会社も出来て、いよいよ平成30年夏の本格稼働を目指し動き出すので、BNC T稼働後には成功裏に導けるように、全診療科挙げて一致協力体制を取る。

⑤学校体質強化・その他

今後共、本学運営を検証・強化するために「企業務定期検証法人部会」において、教育も含めて全部署の業務活動を定期的に検証していく。また、大学並びに病院の各経営改善委員会で審議・決議された事業をはじめ、現在進めている事業への取り組み、あるいは新たに検討する案件の総合的な推進を図る。

3. 主たる事業項目

①法人合併後の着地

- ・学校法人大阪医科薬科大学としての合併効果（教育力・研究力・財政基盤強化）
- ・本邦有数の医療系総合大学・中等学園への発展

②財政基盤

- ・大学並びに病院の各経営改善委員会で決定する諸事業と諸活動
- ・予算統制の確実な実施
- ・ガバナンス・マネジメント体制の整備
- ・校舎と病院のスペースマネジメントの整備

③教育、研究関係

- ・国際的認証評価の受審準備
- ・科研費等の補助金獲得の取り込み
- ・新専門医制度への対応
- ・高大接続改革への対応
- ・教員、授業の評価
- ・医学科新カリキュラム構築
- ・教育用ITシステムの統合
- ・高槻中学、高等学校のキャンパス構想の確定並びに新校舎建設

④病院・診療関係

- ・中央手術棟の本格的な運用開始
- ・三島南病院の診療体制充実と経営改善
- ・新病院全体将来構想の確定
- ・BNC T運営の協力体制
- ・診療科やセンター等の再整備
- ・看護師確保の継続
- ・卒後教育体制の強化

⑤学校体質強化、その他

- ・インテグリティある組織へのSelf Self Development (SSD) とSD/FDの推進
- ・企業務定期検証法人部会の諸活動
- ・人事考課と報奨制度の確立・強化
- ・法人傘下のITシステムのセキュリティ管理強化

II 主な財政支出内容

1 建物関係

1. 高槻中学校・高校校舎  
改修工事

同校は現在、特色化教育の推進に伴い、教室稼働率はほぼ限界に近い。また平成29年度新入生から共学化も踏まえ、SSH、国際化教育等に対応したキャンパス計画を立てており、前年度同校改修工事の基本設計及び実施設計を行った。工事は1期工事

(新高校校舎)とⅡ期工事(図書館・講堂)で実施され、平成28年度はⅠ期工事を竣工するものである。

## 2. 新病院棟(メインタワー)基本設計費

平成24年度に中央手術棟の建築設計を開始すると同時に将来基本構想と同基本計画を検討してきたが、平成27年度に計画の作成を終えた。ついで、都市再生緊急整備計画事業及び本部キャンパス病院建築全体計画認定事業を進めるため、今年度中に新病院棟(仮称:メインタワー)の基本設計を行う必要がある。

## 3. 講義実習棟耐震補強工事

同棟は昭和50年に竣工し、築40年が経過している。以前に本建物は耐震工事を行い、耐震補強が必要との診断が出た。建物形状に合わせた補強工事を行ない、本建物利用者に安心安全を提供する。

## 2 高額医療機器関係

### 1. 全身用X線CT診断装置(中央放射線部)

現在稼働している画像診断用CT装置4台のうち2台が今年度を以て導入後10年が経過し、うち1台のCTは故障が頻発して

障害による検査中止が起きている。検査途中でX線が発生しないケースなども含め医療安全の観点から危惧される状況にあり、本CT装置を購入して入れ替える必要がある。

### 2. BNCTにおける基礎から臨床橋渡し研究(研究推進課)

学長のリーダーシップの下で、研究プランディング事業としてBNCTにおける基礎から臨床への橋渡し研究を推進する。まず、本学としてBNCT共同利用型医療拠点である関西BNCT医療センターにBNCTの適応疾患拡大を図ることを目的に研究用PET-CTを設置し、研究拠点の形成を目指す。これにより本学がBNCTにおける基礎から臨床への橋渡しの研究拠点となるための基盤を構築する。

### 3. 外科用イメージ装置(三島南病院)

現装置は平成21年より使用し保守契約で点検は行っているが、使用中のトラブルが多発し手術延期の事態も起こり買い替えの必要性もあるが、今後の手術件数の増加対応も見込むと、現在の装置はそのまま存置し、追加で本装置を購入する。

## 3 システム関係

### 1. 画像検査・診断支援システム(健康科学クリニック)

画像検査システム関連機器は導入して6年以上が経過しハードウェアの部品供給が絶える可能性が高く、不慮の事故等にも対応できなくなる。加えて現在検査結果等の健診システムへの転記や病理依頼伝票記入等の事務処理を医療技術職が行っているが、この更改により偶発する人的ミスを防止できる。

### 2. 人事・財務・教務系の業務継続計画システム(情報企画管理部)

本学は自前のサーバーによる情報システムを用いて日常業務を行っているが、大災害などが発生した時はシステムの復旧に膨大な時間と費用が費やされ、業務が出来ない状態になる可能性がある。そこで外部データセンターに情報を保管させ、それが利用できるシステムを構築する。これにより障害時においても本法人の業務を最低限運用できる。

## 4 その他

### 1. 特定目的会社(SPV)出資金(事務局BNCT担当)

関西BNCT医療センター設立に向けて運営を担う財団法人と建物・設備を管理する会社(SPV)が設立される。本事業スキームでは関係機関、民都機構並びに本学からの出資を念頭に検討しており、本件は本学分として出資するための予算計上である。

### 2. 法人広報活動費(法人広報室)

法人合併に伴う広報活動により受験者関係、一般社会への両大学の知名度アップ及び受験生増加、優秀な学生の確保、また附属病院への受診者増加を促す。(各種新聞・広報誌での理事長対談などの特集、記念講演会、懇親会、HPでの広報など)

### 3. 補助金事業(医学教育センター)

#### 大学教育再生の戦略的推進(医学教育センター)

文部科学省において平成28年度概要要求(新規要求額30億円)が行われており、詳細については不明であるが、補助金獲得に向けて計画を進めるためその事業費として計上する。

# 大阪医科大学 平成28年度予算の概要

## ■予算編成の基本方針について

平成28年度予算は、本年3月26日の評議員会の審議を経て、同日開催の理事会で承認決定されました。その基本的な考え方は、平成28年度は附属病院中央手術棟の開院による維持管理費用の大幅な増加、三島南病院のヘッド面及びソフト面の充実、教育研究環境の更なる整備、さらには老朽化した病院建物群の建替え資金の確保が必要であるため、引き続き不要、不急な経費の見直しを図るとともに、自助努力により更なる経営改善に取り組むことである。

## ■予算の概要について

### 1. 資金収入

#### (1) 学生生徒等納付金収入

前年度からの大阪府地域枠の新設に伴う医学部の収容定員の増加、医学部の教育充実費の納付方法変更による回収分の増加を見込んでいる。

#### (2) 手数料収入

医学部については、前年度並みの受験生の増加を見込んでいる。看護学部については、今後も受験者数は増加傾向を示すと考えられ、前年度並みの増加を見込んでいる。

#### (3) 寄付金収入

創立90周年記念事業募金活動の積極的展開による成果を見込む。特別寄付、一般寄付ともに特殊要因を除いた平成25年・26年度の平均実績額を計上している。

#### (4) 補助金収入

前年度に大阪府の病院耐震化補助金が発生したため、収入額は減少している。経常費補助金

については、三島南病院のベッド数増加による補助対象教員の増加分を見込んでいる。

#### (5) 付随事業・収益事業収入

治験を中心とする受託事業収入に加え、国や地方公共団体からの受託事業増加を見込み、前年度比107百万円増加の325百万円を計上した。共同研究収入は前年度比9百万円減少の2百万円を計上している。

#### (6) 医療収入

中央手術棟の稼働による手術件数アップ、病院経営改善委員会を中心としたPDCAサイクルの徹底による病床稼働率アップ等により、前年度比11.9億円の増収を見込んでいる。さらに、三島南病院については、病床稼働率の上昇を見込み前年度比で20%の増収を見込んでいる。

#### (7) 受取利息・配当金収入

前年度は退職年金運用収入が株高等により増収となったが、平成28年度は例年並みとし、第3号基本金引当特定資産の果実として6百万円のほか例年並みの金額を見込んでいる。

#### (8) 雑収入

退職金財団交付金収入は前年度比79百万円の減少を見込んだほか、その他の項目についても減少予測としている。

#### (9) 借入金等収入

前年度は中央手術棟建設のための借入金2,200百万円を計上していたが、当年度は借入金の手定はない。

#### (10) 前受金収入

医学部については、2,616百万円、看護学部は361百万円を計上している。

#### (11) その他の収入

前年度は中央手術棟の建築代金支払い資金として施設設備拡充資金特定資産の取崩額1、

600百万円を計上していたが、平成28年度には取崩額がないためその減収分を見込んでいる。前期末未収入金については、医療未収入金収入は前年並みとし、さらに大阪府耐震補助金426百万円を計上している。

### 2. 資金支出

#### (1) 人件費支出

本俸については定期昇給をベースとし俸給表の改定は行わない。賞与については、前年度支給率と同率、加給額も同額とする。その結果、教員人件費5,409百万円、職員人件費10,840百万円を計上することとし、その他のについては、役員報酬51百万円、退職金593百万円、退職年金98百万円を計上した。三島南病院については、職員の給与体系の改善を睨み対前年度実績比で12%増を見込んだ。

#### (2) 教育研究経費支出

新規予算として、大学部門では、講義実習棟耐震補強工事を計上した。附属病院部門においては、医事向けシステム構築費、結石破碎装置保守費、7号館病室用エアコン室内機洗浄工事等を計上した。医療材料費については、医療収入に対する経費比率を基に積算9,195百万円を計上した。

#### (3) 管理経費支出

新規予算として、法人広報パートナー業務委託費・法人広報活動費、中央資料館跡地土壌改良費用、法人ITシステム統合(人事・財務・教務系)の業務継続計画費用、病院医事課診断書係の委託化、BNCT事業経費等を計上した。

#### (4) 借入金等返済支出

定時償還分として437百万円を計上した。

#### (5) 施設関係支出

前年度は中央手術棟建設工事を計上したが、当年度は、新病院棟(仮称：メインタワー)基本設計費を計上している。

#### (6) 設備関係支出

新規予算として、大学部門では、大学教育再生の戦略的推進補助金事業費、BNCTにおける基礎から臨床の橋渡し研究事業費等を計上した。病院部門については、全身用X線CT診断装置、画像検査・診断支援システム(健康科学クリニック)等を計上している。

#### (7) 資産運用支出

前年度は設備拡充資金引当資産として4,000百万円を見込んだが、当年度は500百万円を計上している。また、BNCT事業への出資金(有価証券購入支出)を計上した。

#### (8) 繰越支払資金

翌年度繰越支払資金については5,600百万円を確保できる見込みである。

### 3. 事業活動収入

学校法人の経営に必要不可欠である事業活動支出の財源となる事業活動収入合計は、平成27年度予算比で5.7%の増収を見込んでいる。その内医療収入については、対前年度予算比で9.1%増収を見込んでいる。

### 4. 事業活動支出

教育研究経費、管理経費、借入金利息等の事業活動支出額は、対前年度予算比で8.2%増加を見込んでいる。中央手術棟に係る減価償却額の増加、光熱水費の増加、看護師増に伴う人件費の増加、病院収入増加に伴う医療材料費の増加等が主な要因である。

### 5. 基本金組入前当年度収支差額及び当年度収支差額

基本金組入前当年度収支差額比率は、3.5%を見込んでいる。基本金を組入れた後の当年度収支差額は赤字となる予算編成となっている。

以上

### 平成28年度資金収支予算書

(単位：百万円)

収入の部				
科目	当年度予算額	前年度予算額	増	減
学生生徒等納付金収入	4,230	4,148		82
手数料収入	234	248	△	14
寄附金収入	580	607	△	27
補助金収入	1,712	2,031	△	319
付随事業・収益事業収入	388	483	△	95
医療収入	32,739	29,233		3,506
入院収入	23,994	21,367		2,627
外来収入	7,834	7,025		809
その他の医療収入	890	849		41
介護保険事業収入	174	116		58
保険等査定減	△ 153	△ 123	△	30
受取利息・配当金収入	15	19	△	4
雑収入	587	666	△	79
借入金等収入	0	2,200	△	2,200
前受金収入	2,977	2,910		67
その他の収入	5,552	6,295	△	743
資金収入調整勘定	△ 7,382	△ 8,166		784
前年度繰越支払資金	4,494	8,538	△	4,044
収入の部合計	46,125	49,210	△	3,085

(単位：百万円)

支出の部				
科目	当年度予算額	前年度予算額	増	減
人件費支出	18,883	17,174		1,709
教育研究経費支出	15,295	13,612		1,683
教育研究経費支出	5,120	4,913		207
医療経費支出	10,175	8,698		1,477
医療材料費支出	9,524	8,356		1,168
管理経費支出	2,365	2,249		116
借入金等利息支出	57	44		13
借入金等返済支出	437	304		133
施設関係支出	428	5,580	△	5,152
設備関係支出	1,397	3,807	△	2,410
資産運用支出	800	1,100	△	300
その他の支出	4,199	3,974		225
〔予備費〕	300	300		0
資金支出調整勘定	△ 3,025	△ 5,681		2,656
翌年度繰越支払資金	4,989	6,748	△	1,759
支出の部合計	46,125	49,210	△	3,085

(※) 予算書の数値には、大阪薬科大学及び高槻高等学校分は含んでいない。

### 平成28年度事業活動収支予算書

(単位：百万円)

事業活動収入の部				
科目	当年度予算額	前年度予算額	増	減
学生生徒等納付金	4,230	4,148		82
手数料	234	248	△	14
寄附金	606	630	△	24
經常費等補助金	1,637	1,580		57
付随事業収入	388	483	△	95
医療収入	32,739	29,233		3,506
入院収入	23,994	21,367		2,627
外来収入	7,834	7,025		809
その他の医療収入	890	849		41
介護保険事業収入	174	116		58
保険等査定減	△ 153	△ 123	△	30
雑収入	587	666	△	79
教育活動収入計	40,421	36,987		3,434
事業活動支出の部				
科目	当年度予算額	前年度予算額	増	減
人件費	18,643	17,059		1,584
教育研究経費	17,794	15,615		2,179
教育研究経費	7,619	6,916		703
減価償却額	2,499	2,003		496
医療経費	10,175	8,698		1,477
医療材料費	9,524	8,356		1,168
管理経費	2,556	2,588	△	32
減価償却額	191	262	△	61
徴収不能引当金繰入額	10	3		7
教育活動支出計	39,002	35,265		3,737
教育活動収支差額	1,418	1,722	△	304
教育活動外収入の部				
科目	当年度予算額	前年度予算額	増	減
受取利息・配当金	15	19	△	4
教育活動外収入計	15	19	△	4
教育活動外支出の部				
科目	当年度予算額	前年度予算額	増	減
借入金等利息	57	44		13
教育活動外支出	57	44		13
教育活動外収支差額	△ 42	△ 25	△	17
經常収支差額	1,376	1,697	△	321
特別収入の部				
科目	当年度予算額	前年度予算額	増	減
その他の特別収入	75	451	△	376
特別収入計	75	451	△	376
特別支出の部				
科目	当年度予算額	前年度予算額	増	減
資産処分差額	61	75	△	14
特別支出計	61	75	△	14
特別収支差額	14	376	△	362
〔予備費〕	300	300		0
基本金組入前当年度収入差額	1,090	1,773	△	683
基本金組入額合計	△ 3,246	△ 5,716		2,470
当年度収支差額	△ 2,156	△ 3,943		1,787
前年度繰越収支差額	△ 30,094	△ 26,755		3,339
翌年度繰越収支差額	△ 32,249	△ 30,698		1,551
(参考)				
事業活動収入計	40,511	37,457		3,054
事業活動支出計	39,420	35,684		3,736

## 平成27年度 ゴールドマン・サックス留学支援奨学基金授賞式

平成28年2月9日(火)午後1時より、特別応接室に於いて、平成27年度ゴールドマン・サックス若手医師長期海外留学支援奨学基金授賞式が、寄付者・本基金運営委員及び審査委員であられるゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社代表取締役社長桐谷重毅様のご出席のもと開催されました。

最初に植木理事長・本基金運営委員会委員長から、基金設立の趣旨及び謝意が述べられ、受賞者の紹介及び高い研究成果を持ち帰り、本学の研究レベルを高め、後進の指導に努めていただきたいとの激励のお言葉があり、平成27年度受賞者整形外科学 藤城高志氏及び泌尿器科学 高井朋聡氏へ賞状が授与されました。

続いて大槻学長・本基金審査委員会委員長から選考の経緯が説明され、引き続きゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社代表取締役社長桐谷重毅様から、ご自身の留学経験についてお話しがあり、研究の成果だけでなく一人ひとりの深みと広さを身につけていただくことを期待している旨のご祝辞をいただき、受賞者から謝辞として感謝の気持ち及び抱負が述べられ、最後に受賞者の所属長から謝意が述べられ閉会しました。  
(総務部総務課)



## 平成28年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰

関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学 医薬連携科学研究機構が表彰されました。分子から社会までの人間理解を礎とする「医薬連携科学研究分野」を構築し、医療や医療産業分野を横断、また、世代を継断する新たな教育を実施し、それらの理解増進と普及啓発に努める本機構の活動業績が評価され受賞の運びとなりました。関西大学が主管校で本学は、単位互換による双方向遠隔講義の実施、本機構主催のシンポジウムの開催、小・中学生対象自由研究コンテスト審査などを中心に協働しています。

今回の受賞は、各大学の関係教職員の皆様のご尽力の賜物であり心より感謝申し上げます。今後とも、本機構の活動にご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(医学教育センター 専門教授(医薬連携科学研究機構副機構長) 寺崎文生)



## 平成27年度 田中忠彌国際交流基金授賞式について

平成28年1月19日(火)午前11時より、第1会議室に於いて、平成27年度田中忠彌国際交流基金授賞式が、寄付者(故田中忠彌名誉理事長の御遺族田中清子様、田中和子様、田中陽子様)のご臨席の下、理事長、常務理事、学長及び病院長をはじめ30名余の教職員が参加して開催されました。

本基金運営委員会委員長である植木理事長から、ご挨拶として、本基金設立の主旨及び謝意が述べられ、受賞者への激励のお言葉があり、平成27年度受賞者、整形外科学 伊丹康夫氏及び看護学部 原明子氏へ賞状が授与されました。引き続き、本基金審査委員会委員長である大槻学長から選考の経緯が説明され、寄付者であり本基金運営委員でもあられる田中和子様からは、自身の研究を深めると共に、本学の発展に寄与していただくことを期待している旨のご祝辞をいただき、受賞者から謝辞として感謝の気持ちと抱負が述べられました。

(総務部総務課)



## 第11回 日本医学シミュレーション学会「優秀演題賞」の受賞報告

平成28年1月30〜31日に東京で行われた第11回日本医学シミュレーション学会総会において「優秀演題賞」を受賞しました。

受賞演題のテーマは「麻酔科医と救急医の困難気道管理に対する意識の比較」でした。これは年2回本学で開催している「困難気道管理実践セミナー」における麻酔科医と救急医の気道管理に対する意識を比較したものです。気道管理スキルは周術期管理だけでなく院内急変、心肺蘇生に有効であり、全ての診療科の医療安全に関連するものです。

南敏明教授を始めとする麻酔科学教室、医療技能シミュレーション室の皆様にご心より感謝と御礼を申し上げます。

今後もシミュレーションを活用し本学・本院の教育に微力ながら貢献したいと思っております。

(麻酔科(医療技術シミュレーション室) 助教(副室長) 駒澤伸泰)





平成二十七年  
度  
第二回学位記授与式会場

## 平成27年度 第II回学位記授与式

日時：平成28年3月25日(金) 15:00~ 場所：別館(歴史資料館)1階講堂

- \*大学院医学研究科修了者(甲).....17名
- \*論文提出者(乙).....3名
- \*大学院看護学研究科前期課程修了者(修).....5名

(平成28年3月2日付授与)

番号/氏名	論文題名
甲第1005号 今川 憲太郎	Comparison of the hemodynamic effects of sevoflurane and desflurane during induction of anesthesia: a prospective randomized controlled trial (全身麻酔導入時のセボフルランとデスフルランが循環動態に与える影響の比較検討)
甲第1006号 大住 渉	Recombinant human soluble thrombomodulin improved lipopolysaccharide/D-galactosamine-induced acute liver failure in mice (リポポリサッカライド/D-ガラクトサミン誘発性マウス急性肝不全に対する遺伝子組み換え型ヒト可溶性トロンボモジュリンの改善効果)
甲第1007号 太田 和寛	What kind of capsule endoscope is suitable for a controllable self-propelling capsule endoscope? Experimental study using a porcine stomach model for clinical application (with videos) (自走式カプセル内視鏡に最も適しているカプセル内視鏡の種類はどれか?—臨床応用のためのブタ胃での基礎研究(ビデオ有))
甲第1008号 大瀧 日出子	M2b macrophage elimination and improved resistance of mice with chronic alcohol consumption to opportunistic infections (M2bマクロファージを排除することで慢性アルコール投与マウスはアルコール過剰摂取時に起こしやすい感染症に対する抵抗性が改善する)
甲第1009号 木村 侑子	Periodontal pathogens participate in synovitis in patients with rheumatoid arthritis in clinical remission: a retrospective case-control study (臨床的寛解期の関節リウマチ患者において歯周病原菌が滑膜炎に関与する:後ろ向き症例対照研究)
甲第1010号 筋師 徹也	Sitagliptin can inhibit the development of hepatic steatosis in high-fructose diet-fed ob/ob mice (シタグリプチンは高フルクトース飼料摂取のob/obマウスにおいて肝の脂肪性を抑制する)
甲第1011号 田崎 龍之介	Plasma pentraxin3 level is associated with plaque vulnerability assessed by optical coherence tomography in patients with coronary artery disease (冠動脈疾患症例において、血漿ペントラキシン3濃度は光干渉断層法で評価したプラーク不安定性と関連している)
甲第1012号 田中 智人	CD24 expression as a marker for predicting clinical outcome and invasive activity in uterine cervical cancer (子宮頸癌におけるCD24の予後因子及び浸潤能の指標としての有用性の検討)
甲第1013号 土本 雄亮	M2b monocytes provoke bacterial pneumonia and gut bacteria-associated sepsis in alcoholics (アルコール過剰摂取によるM2b単球は細菌性肺炎や腸管由来の細菌性敗血症の原因となる)
甲第1014号 永田 大樹	Cardiac adipose-derived stem cells exhibit high differentiation potential to cardiovascular cells in C57BL/6 mice (C57BL/6マウスでは心臓周囲脂肪組織由来幹細胞は心血管系細胞への高い分化能を示す)
甲第1015号 野木 信平	Serum uric acid is associated with cardiac diastolic dysfunction among women with preserved ejection fraction (左室駆出率が保たれた女性患者では血清尿酸値と並發障害は関連する)
甲第1016号 原田 智	Autophagy deficiency diminishes indomethacin-induced intestinal epithelial cell damage through activation of the ERK/Nrf2/HO-1 pathway (オートファジーの欠損はERK/Nrf2/HO-1経路の亢進を介し、インドメタシン起因性小腸粘膜傷害を抑制する)

番号/氏名	論文題名
甲第1017号 藤岡 大也	Comparative proteomic analysis of paclitaxel resistance-related proteins in human breast cancer cell lines (ヒト乳癌細胞株におけるパクリタキセル耐性関連タンパク質のプロテオーム解析)
甲第1018号 藤原 薫	Combined treatment with dipeptidyl peptidase 4 (DPP4) inhibitor sitagliptin and elemental diets reduced indomethacin-induced intestinal injury in rats via the increase of mucosal glucagon-like peptide-2 concentration (インドメタシン起因性小腸粘膜傷害におけるDPP4阻害剤と成分栄養剤の治療・予防効果)
甲第1019号 南 由佳子	Association of thyroid hormones with obesity and metabolic syndrome in Japanese children (日本人小児における肥満と代謝リックシンドロームに関する甲状腺ホルモン値の検討)
甲第1020号 森下 清太	Systemic simvastatin rescues retinal ganglion cells from optic nerve injury possibly through suppression of astroglial NF-κB activation (シムバスタチンの全身投与は視神経損傷においてNF-κBの抑制を介して網膜神経節細胞を保護する)
甲第1021号 依藤 直紀	The dipeptidyl peptidase-4 inhibitor sitagliptin suppresses mouse colon tumorigenesis in type 2 diabetic mice (DPP-4阻害剤は2型糖尿病モデル誘発結腸腫瘍の発生を抑制する)
乙第1146号 北野 勝也	Long-term outcome of percutaneous coronary intervention in insulin-treated diabetic patients with multivessel disease (多枝冠動脈病変を合併するインスリン治療中の糖尿病患者におけるPCI治療後の長期予後に関する研究)
乙第1147号 西川 周治	Assessing the histological type and grade of primary parotid carcinoma by fine-needle aspiration and frozen section (耳下腺癌に対する穿刺吸引細胞診および迅速病理診断における組織型・悪性度診断についての検討)
乙第1148号 山内 繁	Effects of a polymorphism in CACNA1C on schizophrenia with prolonged QTc (統合失調症におけるCACNA1C遺伝子の遺伝的多型がQTc延長にもたらす影響)

(平成28年3月9日付授与)

修第1号 大橋 尚弘	高齢夫婦間腎移植後にドナーとレシピエントのみで同居する夫婦のありよう (States of Couples Living Alone after Renal Transplantation between Old Couples)
修第2号 内藤 加奈子	進行膵臓がん患者の積極的治療継続の決定に至る過程 (The Decision-Making Process on Going the Active Treatment of Advanced Pancreatic Cancer Patients)
修第3号 面原 望	在宅酸素療法患者の酸素化を促進する入浴動作の援助 (Help of the Bathing Movement to Promote Oxygenicity of the Long-Term Oxygen Therapy Patients)
修第4号 間中 麻衣子	産後うつ予防のためのオリジナルリーフレットを用いた妊娠末期妊婦への個別指導の有用性 (Utility of Individual Instruction with an Original Leaflet for the Prevention of Postpartum Depression during Late Pregnancy)
修第5号 山笠 のみ恵	都市部の介護予防活動における参加者同士の支え合いが日常的な近隣とのつながりに及ぼす影響 (Influence of Reciprocal Exchange of Social Support between Participants in Preventive Care Activities on Daily Relationships within Urban Neighborhoods in Japan)

## 第1回「教育・研究集会」を振り返って



平成28年1月27日、本学で初めてとなる第1回「教育・研究集会」が臨床第一講堂において開催されました。この集会は、平成27年6月に新学長に就任して以降、「教育戦略会議」や「研究戦略会議」を通じて活動し推進してきた「教学改革」の活動内容や、今後、本学が進むべき方向性や目標等を学生、教職員とともに情報を共有し、本学の現状を理解するとともに、教育・研究活動の更なる活性化と意識改革を進めていくことを目的に開催しました。当日の集会には学生120名、教職員



190名、合計310名という多くの方々に参加していただき、2時間30分に及びましたが、そのほとんどの参加者が最後まで退席することなく熱心に耳を傾けてくださいました。本集会では、まず初めに、「大阪医科大学学長としての教学改革方針と行動目標」を説明し、併せて学長就任以降の「大阪医科大学における教学改革に向けた教育・研究戦略両会議の活動内容サマリー」を配布し、情報の共有化を図りました。続いて、医学部、看護学部各教育センター長ならびに大学院委員会委員長、研究

支援センター長や各プロジェクト、組織の責任者による活動成果と現時点での課題、今後の活動目標などが説明されました。

本集会に対する参加者からの反響は大きく、幾つかの嬉しい便りが届きましたのでご紹介します。その中に、「情熱溢れる説明を通して今後の活動に対する意気込みが伝わり感激した。」「自分もプロジェクトに参画し、一緒に改革を進めていきたい。」「教育者や研究者の方々が考えている本学の将来の方向性や目標を知る機会が持てて良かった。」などのコメントが寄せられ、本集会の主催者として今後の継続的な活動への責任をひしひしと感じています。

今回の「教育・研究集会」が発表者による一方的な説明であったことから、半年後に予定している「第2回教育・研究集会」では、「第1回教育・研究集会」で掲げた活動目標に対する成果物や進捗状況をご説明するとともに、参加者の質問に答えるQ&A形式の集会にしたいと考えております。最後に、「第1回教育・研究集会」は、本学で教育・研究に携わる学生、教職員が一体感を持つて活動し、喜びを分かち合うことができる場を作り上げるためのスターティングポイントに立つことが出来たと考えます。今後も「教職協働」による一体感ある教学改革を進めてまいりますので、引き続き皆様方のご協力をお願い申し上げます。

(学長 大槻勝紀)

## 大阪医科大学と高知県との医師派遣の基本協定締結式



平成28年3月24日、高知県庁第一応接室において、高知県 尾崎正直知事と本学 大槻勝紀学長との間で上記基本契約書の調印式が執り行われました。第1期の協定が平成28年3月31日までであったため、新たに平成28年4月1日〜平成30年3月31日までの第2期の協定が結ばれました。これまでの高知県における医師派遣事業が地域医療に貢献する所が大きく、今後も継続していくことが確認されました。

(学長 大槻勝紀)

## ベトナム国家大学ハノイ校とベトナム日本大使館を訪問して



ズン学長（ベトナム国家大学にて）

本年1月22日に在ベトナム国家大学ハノイ校と在ベトナム日本大使館を訪問してきましたので報告します。ベトナムでは人工透析の設備や治療が遅れており、本学出身の泌尿器科医の柴原先生が10数年間NPO法人を立ち上げベトナムで活動され、そのことがベトナムで高く評価されていきました。今回彼がバックマイン病院（ベトナム国家大学ハノイ校の関連病院）から招待講演の依頼がありました。それに先立って昨年、ベトナム国家大学ハノイ校のズン学長が訪日した際、本学を表敬訪問されました。

その際、ズン学長から招聘を受けましたので、今回、訪越し、同大学を視察することになりました。また日本大使館を訪問し深田特命全権大使と会談する機会を得ました。昨今のイスラム国の事件で日本大使館のセキュリティが厳しくなっていました。深田大使が言うには「ベトナム自体の治安はよく、日本からのベトナムへの企業の進出が盛んで、ハノイには日本人が4万人在住している。」とのことでした。ベトナム国家大学と本学との国際交流のお話をしたところ、大変喜ばれました。深田大使のご出身が偶然にも高槻市で、茨木高校ご卒業とのこと、本学についてもよくご存知でした。



深田大使、柴原先生らとともに（ベトナム大使館にて）

ベトナム国家大学は（ホーチミン校とハノイ校）の二つがあります。ベトナムにおける医学部は国立大学（国家大学）2校、公立医科大学は16校、私立医科大学は25校ぐらい存在します。大学は附属病院を持たず、市中の病院と連携し学生の臨床実習を行っているとのこと。ベトナムの有名な大学としてハノイ大学があります。ハノイ大学には附属病院がありますが規模がとて小さいとのことでした。ベトナム国家大学ハノイ校の教員の多くはハノイ大学出身で、研究レベルも高いとのことでした。特に中国文化の影響があるのかもしれないが、漢方薬の研究が盛んなようで、研究者からは創薬特になん治療に有効な成分の同定などの共同研究を本学で行いたいとの希望が出されていきました。またハノイ校の研究者は国家戦略特区として昨年本学に誘致が決まりました関西B NCT医療センターについて興味を示されていきました。ハノイ校は6年制、一学年100名で本学とほぼ同様の規模です。ハノイ校は建学4年目を迎えられたばかりの大学です。まずは研究レベルで交流を図りながら、今後、学生の国際交流を進め、中山国際医学医療交流センターを紹介して協定書の締結を含めて国際交流先の大学の一つに加えていただければと思います。



（学長 大槻 勝紀）

## 名誉教授・功勞教授称号授与



3月末日をもって定年退職された5名の先生方に対し、平成28年4月2日(出)花房俊昭先生に名誉教授の称号を、平成28年4月4日(月)千原精志郎先生に名誉教授の称号を、また伊藤裕子先生、辻求先生、西村保一郎先生に功勞教授の称号が、学長室において授与されました。

（総務部人事課 課長 中谷尚文）

地方創生くまとりアトムシンポジウム ～BNC Tと熊取町のさらなる発展のために～



平成28年3月19日(土)、午後1時30分より、熊取町民会館ホールにて、地方創生くまとりアトムシンポジウム『BNC Tと熊取町のさらなる発展のために』が開催されました。



本シンポジウムは、BNC Tのさらなる発展や京都大学原子炉実験所のある熊取町の活性化に向けて、関係機関がどのように連携するのといった点について行われました。本学からは、大槻勝紀学長がパネリストとして出席し、清水健アナウンサー（読売テレビ放送）の司会進行により、BNC T第一人者である小野公二先生（京都大学名誉教授）らとともに、熱心なディスカッションが進められました。

関西BNC T医療センター設立事業が進められる中、本学としても関係行政とさまざまな連携を進める予定としております。（BNC T担当）

中央手術棟定礎除幕式挙行



平成28年1月29日(金)、午前10時から、本部西キャンパスに完成した中央手術棟において、定礎除幕式が執り行われました。

式典には、植木理事長をはじめ本学理事や教授等関係各位、設計・監理を担当された株式会社日建設計及び建築を担当された株式会社銭高組



の方々が参列され、野見神社の宮司様による修祓と清祓を行った後、植木理事長、黒岩病院長、株式会社日建設計 副会長 林様、株式会社銭高組 大阪支社長 銭高様による定礎石の除幕を行い、中央手術棟の完成を祝いました。引き続き、株式会社日建設計様及び株式会社銭高組様への感謝状贈呈、全員での記念撮影が行われ、最後に建物の安全を祈願して宮司様による建物外側周囲四方のお祓いを受けました。

関西でも有数の規模と機能を誇り、最新の機器・設備を備えた中央手術棟の開院は、本大学病院の医療の一層の高度化とともに、地域医療へのさらなる貢献につながるものと期待されます。

(総務部総務課 主任 樹井直昭)

## 大学安全対策室 報告 ～教育研究環境安全管理確認の巡視について～



(大学安全対策室)

実験研究室や実習室を対象に平成28年3月18日(金)～31日(休)にかけて、大学研究環境管理小委員会による巡視が実施されました。

今回の巡視では、昨年度指摘された点の改善状況の確認に加え、警察庁や労働基準監督署等行政による指摘・要請や法令改正を受け、爆発物原料物質・特定化学物質・特別管理物質・有機溶剤等の管理状況、また、実験機器の自主点検や地震対策の実施状況が重点的に確認されました。

この巡視を重ねるたびに各実験研究室の整理整頓が進み、地震対策等が講じられ、安全性が高まっているように思われます。

今回の巡視にて指摘された点につきましては、教室関係者の安全を確保するため、改善策を講じ、引き続き安全管理にご協力くださいますようお願いいたします。

## 第2回 大阪医科大学附属病院JMECC講習会の開催報告



(医療総合研修センター 課長 藤永孝)

平成29年度より新たな専門医制度が始まろうとしています。新内科専門医プログラムの基幹施設として申請するには、JMECC (Japanese Medical Emergency Care Course) の開催が必修条件となっております。しかし、同講習会を本学のみで開催するには指導者が不足していました。そこで、インストラクター養成を目的に、近畿大学宮崎俊一教授、神戸大学西村与志郎先生等のご協力を得て、本年3月27日に本学新講義実習棟にて同講習会を開催しました。講習会には本学の内科教室及び関連医療機関から12名の内科医師が参加し、講習会終了後に実施された試験にも合格され、日本内科学会及び日本救急医学会が発行する修了証が授与されました。

## 第2回 大阪医科大学末梢血管超音波トレーニングセミナーの開催報告



(麻酔科(医療技術シミュレーション室) 助教(副室長) 駒澤伸泰)

平成28年3月5日に周術期サイレントキラーである深部静脈血栓症対策の一つとして、「第2回大阪医科大学末梢血管超音波トレーニングセミナー」を行いました。麻酔科医9名、看護師6名、臨床工学技士2名の合計17名が参加しました。講師として当院麻酔科の澤井俊幸准教授だけでなく、近畿大学医学部附属病院医療安全管理室の保田知生先生をお招きしました。深部静脈血栓症の発症と予防、薬剤治療についてご講義を行い、その後医療技能シミュレーション室で模擬患者形式による静脈エコーの実習を行いました。より安全な周術期医療安全向上のためにもこのようなハンズオンセミナーを今後も継続していきたいと思っております。

## 第6回 周術期危機管理セミナー (医療ガス編) の開催報告



(麻酔科(医療技術シミュレーション室) 助教(副室長) 駒澤伸泰)

平成28年2月6日に中央手術室における医療ガス安全管理対策訓練の一つとして麻酔科医と手術室看護師合同で手術室内にて、「第6回周術期危機管理セミナー」を行いました。

今回は新手術棟移転にあたり、医療ガス危機管理をテーマにしました。本病院だけでなく、市立ひらかた病院、北摂総合病院、第一東和会病院、松下記念病院からも手術室看護師および麻酔科医が総勢36名参加しました。医療ガス学会のガイドラインを学んだ後、各病院における酸素ボンベの適切使用や各種医療ガス関連のトラブル発生時の対応についてデイスカッションを行いました。

新手術棟の完成も近く、安全向上の観点からも多職種が協力して手術室災害危機管理を行うこの試みを今後も継続していきたいと思っております。

## イギリス グラスゴー大学での臨床実習を終えて



David Ritchie 上級専門医と

財団法人医学教育振興財団の平成27年度「英国医学部における臨床実習のための短期留学」のプログラムで、平成28年2月29日より3月24日まで4週間、グラスゴー大学のQueen Elizabeth University HospitalのDepartment of Accident & Emergencyで実習をさせて頂きました。Queen Elizabeth University Hospitalは約1700床あり、Accident & EmergencyはScotlandを幅広くカバーしており、あらゆる社会的バックグラウンドをもった患者さんが運ばれて来ます。最初は戸惑いでしたが丁寧なご指導の下、採血や縫合、その他様々な手技などの幅広い体験をすることができました。今回の留学に際して、大槻勝紀学長、河田了教授、中山国際医学医療交流センター及び学務の皆様にご場をお借りして心から感謝申し上げます。皆様の大きなお力に支えられ、素晴らしい環境のもとで学ばせて頂きました。

(医学部医学科6年生 末方由)

## タイ マヒドン大学で行われた国際大会に参加して



Piyamitr Sritara 医学部長へ表敬訪問

3月18日から4日間、タイのバンコクにあるマヒドン大学医学部Siriraj病院で行われたSIMPICに大阪医科大学代表として出場してきました。SIMPICとは微生物学、寄生虫学、免疫学の国際学生コンペティションで、アジアの優秀な学生が集い知識を競います。大阪医科大学からは1チーム4名構成の2チームが出場しました。個人的には300人以上の聴衆を前に感染症の予防について発表をさせて頂いた機会もありました。大会期間中、マヒドン大学やアジアの様々な国から来た学生達と親交を深め、大いに刺激を受けました。ここで学んだ事、そして結んだ親交は将来の自分の大きな助けとなると確信しています。

(医学部医学科3年生 井上鐘哲)

## 海外交流支援制度 支援金2016年度支給



「海外交流支援制度」に基づき、今年度は整形外科の伊丹康夫先生と藤城高志先生に支援金が授与されました。伊丹先生はアメリカのカリフォルニア大学Irvine校で「肘部管症候群に対する効果的なnerve gliding techniqueの解明」について、藤城先生はフランスのポルドー大学附属病院で「成人脊椎変形患者の頸椎アライメントとQOLの関わり」について、それぞれ2年間研究される予定です。

(中山国際医学医療交流センター)

## 全国医学生生理学クイズ大会準優勝！



4月17日、岡山大学で第一回「Japan Medical School Physiology Quiz」が開催され、世界大会を組織しているマラヤ大学のChen教授も審査員として出席して生理学の全分野から早押しや筆記、並び替えなどの形式で出題がありました。問題も回答も英語でしたが、出場者は流暢な受け答えで日頃の勉強の成果を披露しました。本学からは渡辺君、日下部さん、池本さん、井上くん、鈴木さん、河原崎さん、山本さんが出場し、2ニヤ近々チームは熱戦の末、見事準優勝となりました。懇親会では他学の学生たちと交流し、勉強法を話し合ったり、連絡先を交換したりして、インドネシアで開かれる世界大会にも意欲を示していました。彼らにつづく後輩諸君の参加を期待します。

(生理学教室 教授 小野富三人)

## 平成28年度 新入生学外合宿



日時：平成28年4月7日、8日  
 (一泊二日)  
 場所：ラフォーレ琵琶湖(滋賀県)  
 医看融合教育の一環として、医学部・看護学部合同の新入生学外合宿を行いました。

1日目は、日本ライフサポート協会理事長の西本先生より「AEDを用いた心肺蘇生法について」の講義を受け、続いて学生全員がAEDのシミュレーターを用いて心肺蘇生の実習を行いました。実習後、「学生生活の誓いを作ろう」と題し「将来どんな医療人になりたいか、そのためにはどのような学生生活を過ごせば良いか」というテーマのもと、医学部生、看護学部生混同の小グループに分かれ発表討論会を行いました。

2日目は、発表討論会で各グループが作成したポスターを発表し、質疑応答など活発な意見交換を行いました。医学部生と看護学部生が交流できた有意義な新入生学外合宿となりました。(学務部)

## 第9回 医工業連携の会(本学・関西大学・大阪薬科大学)開催



4月22日(金)に関西大学千里山キャンパスにて第9回医工業連携の会が開催され約60名が集まりました。本会は平成24年3月に関西大学で第1回目を開催して以来、年に2回各大学持ち回りで開催し、シーズ発表や研究者同士の情報交換を通じて共同研究を模索する貴重な機会となっています。

今回、本学からは大槻学長、辻山研究支援センター特務教授、赤澤研究支援センター副センター長、寺崎三大学医工業連携科学教育研究機構副機構長等10名の研究者が参加され、整形外科教室の大槻助教より『半月板損傷に対する新規 Scaffold の開発』との課題発表を行いました。

次回は本学が当番校なので今回以上に充実した内容にしていきたいと思えます。

(研究推進課 課長代理 原口 浩幸)

## 平成28年度 職員入職式



平成28年度 職員入職式  
 日時：平成28年4月1日(金)9時  
 場所：臨床第一講堂

教員、研修医等126名、事務職員・技術職員等45名、看護職員115名、計286名の入職式が行われました。植木理事長の挨拶が続いて、佐野浩一常務理事より辞令が交付され臨席者の紹介、大槻学長、内山病院長の挨拶が行われました。(総務部人事課)

## 平成27年度 卒業式

日時：平成28年3月4日（金） 場所：高槻現代劇場 中ホール

第1部 12：00～大阪医科大学卒業式

第2部 14：00～卒業証書・学位授与式



大阪医科大学卒業式を挙行了しました。式は2部構成で、第1部として医学部・看護学部の合同卒業式を行った後、第2部として学部ごとに会場を分け、卒業証書・学位記授与式を行いました。本年度の卒業生は、医学部97名、看護学部85名で、当日会場には約200名の保護者の皆様方、来賓20名がお越しくださいました。卒業生の皆様が医療人として、また、社会人として立派に旅立ちされることを心よりお祈り申し上げます。

### 医学部 卒業証書・学位記授与式

場所：高槻現代劇場 中ホール

式次第

- 一、 開式の辞
- 一、 卒業証書・学位記授与
- 一、 医学部長式辞
- 一、 褒賞授与
- 一、 スライドショー上映
- 一、 閉式の辞



### 看護学部 卒業証書・学位記授与式

場所：高槻現代劇場 レセプションホール

式次第

- 一、 開式の辞
- 一、 卒業証書・学位記授与
- 一、 看護学部長式辞
- 一、 褒賞授与
- 一、 スライドショー上映
- 一、 閉式の辞



# 平成28年度 大学入学宣誓式

日時：平成28年4月6日(水) 14:00～ 場所：高槻現代劇場 大ホール

入学生：医学部医学科 112名

看護学部看護学科 85名



# 平成二十八年度 大阪医科大学 入学宣誓式

- 平成二十八年度  
大阪医科大学 入学宣誓式次第
- 一、開式の辞
  - 一、国歌斉唱
  - 一、入学生氏名発表
  - 一、宣誓書朗読
  - 一、学長式辞
  - 一、来賓代表祝辞および来賓紹介
  - 一、学歌斉唱
  - 一、閉式の辞



# 平成28年度 大学院入学宣誓式

日時：平成28年4月4日(月) 16:00～ 場所：看護学部 講堂

入学生：医学研究科 博士課程 39名

看護学研究科 博士後期課程 5名 博士前期課程 9名





学長 大槻 勝紀

## 第110回 医師国家試験結果と その対策について

第110回医師国家試験は新卒95・9%、既卒77・8%、総数94・3%で、全国平均（各94・3%、60・1%、91・5%）と比較し、すべての数字において全国平均を上回った。特に昨年の既卒者7名全員が合格したお陰で、積み残しの既卒者は今年の不合格者4名を加え9名のみとなり、来年の医師国家試験の総数にも好影響をもたらすと考えられる。本学において国試浪人1年目の合格率が高い理由は明らかで、現役6年生の時の国試対策が間に合わなかった、すなわち学修時間が不足していたからであり、この理由は各学年の原級留置者（留年生）においても同様である。そのため普段からの予習やレポート等による課題学習

による授業時間以外での学修時間を増やす対策が必要である。現在、第1、2年生全員にiPadを配り、前もって授業の資料をムードルに貼り付け予習を促している。現役の学生が身に着けるべき知識量は私たちの時代と比較するとはるかに増加している。私たちの時代には免疫学、分子生物学、遺伝子治療や再生医療などの学問は無かった。そのため現在の学生に、すべての知識を限られた時間内に座学で教え込むことは困難である。さらに本学は国際認証の受審に備え、臨床実習を現在の46週から70週程度に増やす必要がある。新カリキュラムを来年度に実施する。そのためまず座学などのパッシブラーニングからアクティブラーニング（能動的学習：Problem-based Learning (PBL)、反転授業、プレゼンテーション、フィールドワークなど）の必要性が増す。本学においてはアクティブラーニングとして第3、4学年でPBLを行ってきた。しかし当初、PBLによる効果（問題解決型能力の養成と学修時間の増加など）は、年を経るごとに形骸化していった。すなわち自学自習時間を有効に使用せず、結果として学修時間が十分でない学生が増加することになった。今後の医師国試対策としては、これまでの経験から成績順位50番以内の学生からはほとんど国試不合格者が見られないため、成績上位者50番までの学生にはある程度自由に勉強させ、成績下位者には何らかのペースメーカー的な授業が必要と考えている。今年から5年生の

水曜日午後からの国試対策講義はプロに任せ、国試対策のペースメーカー的な講義を行ってもらう。6年生の特別講義はこれまでボトム30名に義務付けられてきたが、今年は51番以後の下位者全員を対象にする。ただこれまでの特別講義は本学教員にお願いすることが多かったが、今年からは国試対策のプロに任せ、各科の疾患についての基本的な考え方を中心に解説してもらう。土曜日の国試対策は午前中のリコンファーム（確認）試験は6年生全員受講するが、午後からの解説は成績上位者をフリーにする。また土曜日のリコンファーム試験は5年生の希望者にも開放し、5、6年生を互いに刺激させることを考えている。

医師国家試験新卒合格率の推移





看護学部  
国家試験対策委員会  
委員長  
元看護学部教授  
瀧井 道明

# 看護学部 国家試験対策を

## 振り返って

今春の看護学部卒業生は3期生になります  
が、2月に①第105回看護師国家試験、②  
第102回保健師国家試験、③第99回助産師国  
家試験が施行されました。結果は、①85名受験  
85名合格(100%)、②49名受験46名合格(93.  
9%)、③6名受験6名合格(100%)でし  
た。看護師の合格率100%は全国平均(新  
卒)の94・9%に比較しても満足すべきもので  
あり、開学以来3年連続して卒業生はひとりも  
浪人することなく全員就職できていることは誠  
に喜ばしいことです。

私の担当の4年生選択科目の講義では国家試

験を少しは念頭に入れて話しをしますが、直接的な  
国家試験対策は大手の教育業者に依頼し、1年間  
に対策講座は40コマ、模擬試験は6回行いました。  
また、学生のチューターにも個別に具体的な学習  
指導を依頼しました。委員会では毎回の模擬試験  
の結果を分析して、成績下位の学生さんを把握し  
て対策を講じました。今春の卒業生は昨春の卒業  
生に比べると、成績下位層の学生数が若干多く、  
また、学年全体に少しのんびりしたムードがある  
ように感じました。本試験直前の登校日に、「D  
判定でもあきらめずにあと数週間頑張って合格で  
きれば、長い人生において将来の糧になる」と委  
員長として激励の訓示をしました。成績下位層の  
学生さんも直前の追い込みが奏功したのだと思い  
ます。なお、今回の本試験の模範解答について、  
各教育業者間で正解例が異なった問題が結構多  
かったことには戸惑いました。

保健師で3名の不合格者があつたものの、2年  
連続の看護師国家試験合格率100%は結構ア  
ピールできるのではないかと思います。また、本  
学看護学部の学生さんは入学時点から良い学生さ  
んが選抜されているとも実感しております。今年  
度以降も看護師合格率100%を維持していける  
かが目標となりました。最後に、委員長を支えて  
頂いた国家試験対策委員会委員の皆様、チュー  
ターとして指導に携わって頂いた教員の皆様、ご  
協力頂きました事務職員の方々にも御礼申し上げ  
ます。

### ■平成28年度 国家試験状況

( )は平成27年度

		受験者数 [人]	合格者数 [人]	合格率 [%]	全国平均 [%]
平成28年度 第110回医師国家試験	総数	106 (125)	100 (115)	94.3 (92.0)	91.5 (91.2)
	新卒	97 (107)	93 (101)	95.9 (94.4)	94.3 (94.5)
	既卒	9 (18)	7 (14)	77.8 (77.8)	60.1 (57.0)
平成28年度 第105回看護師国家試験	総数	85 (83)	85 (83)	100.0 (100.0)	89.4 (90.0)
	新卒	85 (83)	85 (83)	100.0 (100.0)	94.9 (95.5)
平成28年度 第102回保健師国家試験	総数	49 (83)	46 (83)	93.9 (100.0)	89.8 (99.4)
	新卒	49 (83)	46 (83)	93.9 (100.0)	92.6 (99.6)
平成28年度 第99回助産師国家試験	総数	6 (4)	6 (4)	100.0 (100.0)	99.8 (99.9)
	新卒	6 (4)	6 (4)	100.0 (100.0)	99.8 (99.9)

大阪医科大学病院  
病院長就任のご挨拶



病院長 内山 和久

平成28年4月1日付で大阪医科大学病院院長を拝命致しました、ひとことご挨拶を申し上げます。大学は来年90周年を迎えます。附属病院はこの長い歴史と9、243名の同窓生の多大なご尽力に支えられて今日に至りました。阪急高槻市駅に隣接し、さらにJR高槻駅徒歩5分という交通至便の地であり、北摂地域における地域医療の要を担っています。さらに、この数年間で病院機能も社会的役割も飛躍的に成長しました。現在では、862床の病院として29の診療科と14の中央診療部門を2、000人余の病院スタッフが支えています。

この春には大阪薬科大学と法人合併し、学校法人大阪医科薬科大学となり、今後さらなる発展が期待されています。その法人が提唱するsustainability（社会・環境の持続的な発展のための責任ある行動）の中で大学の基本的な役割は、「診療・教育・研究」が3本柱ですが、附属病院としては診療の充実が中心となります。基本的に

は安全性が高く、患者様に信頼される魅力ある病院づくりに集約されます。高槻市には市民病院がなく、地域の中核病院としての市民病院的な役割も担っていますが、2025年に向けて地域包括化構想が推進され、病院の役割分担が明確化すると、本院は「高度急性期病院」となります。つまり特定機能病院として高度な先進医療を提供する義務が課され、また大学病院として若いスタッフを教育する必要があります。

本年3月には病院西側に6階建ての中央手術棟が竣工しました。2、3階に計20室の手術室と16床のICU、そして4階には胸部外科病棟、5階には消化器外科病棟が配置されています。とくに3階にはハイブリッド手術やロボット手術室など最新技術が導入され、対外的にも注目されており、また5年後には現在の5号館を取り壊し、最新設備を導入した12階建てのメインタワー病棟が建設される予定です。

われわれ職員一同は、「社会のニーズにこたえる安全で質の高い医療を皆様にご提供するとともに、良識ある人間性豊かな医療人を育成します」という本院の理念を実現すべく、一丸となって日々努力し、患者様とご家族に安心と安らぎを与えられる病院を目指しています。何かお気付きの点やご要望がございましたら、ご意見をいただければ幸いです。今後ともよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

【略歴】	
昭和58年	大阪医科大学卒業
平成14年	和歌山県立医科大学/医学部/講師
平成16年	和歌山県立医科大学/医学部/助教授
平成19年	和歌山県立医科大学/医学部/准教授
平成23年	大阪医科大学/医学部/一般・消化器外科/教授
平成23年	和歌山県立医科大学 非常勤講師

大阪医科大学病院 副院長紹介



個人情報管理担当

循環器内科

石坂 信和教授



職員教育担当

整形外科

根尾 昌志教授



薬剤（保険）担当

心臓血管外科

勝間田 敬弘教授



安全（危機）管理担当

麻酔科

南 敏明教授

## 就任のご挨拶



解剖学教室  
教授 近藤 洋一

この度、解剖学教室教授に就任いたしました近藤です。肉眼解剖、顕微解剖、神経解剖という医学習得の基盤となる科目の教育を受け持つに当たり重責を感じております。学生には篤志献体していただいたご遺体での実習、また座学等を通して、知識を獲得するにとどまらず、良質の医療人として成長するための基礎を築いてほしいと願っており、それを楽しみに教育活動に邁進してまいります。

研究については、現教室員が細胞死、器官発生、癌の治療等について学内外との共同研究も含めて活発に行っています。そこに私の研究テーマである「髄鞘の再生」が加わりますが、これらはすべて細胞の多様な営みという視点で相互につながりがあり、解剖学らしく幅が広く、また奥の深い研究が展開できるであろうと考えています。

大学の国際化が今一層求められています。しかし、元来先進的な研究を行うおうとすれば国際的活動は必要不可欠です。一流の研究によって世界に開けた解剖学教室を実現し、大阪医科大学の発展に貢献したいと考えています。大阪医科大学は私にとっては全く新しい環境ですが、心強い教室のスタッフや事務系の方々にも支えていただきながら、日々精進してまいりますので、今後ともよろしくご厚意申し上げます。

【略 歴】	
平成 元年	岡山大学医学部卒業
平成 元年	岡山大学医学部附属病院第三内科入局
平成 7年	岡山大学大学院医学研究科（脳代謝医学）修了
平成 7年	岡山大学医学部分子細胞医学研究施設神経情報学部門研究員
平成 8年	岡山大学助手
平成10年	米国ハーバード大学医学部・ブリガムアンド ウィメンズ病院研究員
平成13年	米国ウィスコンシン大学マティソン校 研究員～ Associate Scientist
平成23年	米国ロチェスター大学メディカルセンター Assistant Professor
平成26年	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 細胞組織学分野准教授
平成28年	大阪医科大学解剖学教室教授



看護学部看護学科  
教授 津田 泰宏

この度4月1日付で看護学部教授に就任いたしました。私は今まで第二内科学で内科学、消化器病、肝疾患を中心に約22年間臨床をしてまいりました。主に肝臓病学、肝細胞癌の好中球機能を中心とした宿主免疫状態、C型、B型肝炎に対するウイルス治療、慢性肝不全に対する栄養療法などを専門に臨床、研究を行ってきました。肝疾患はご周知の如く慢性疾患であり、長期の経過を辿る患者様が多いことが特徴です。今までの臨床経験から医師、看護師などのクリニカルスタッフがそれぞれで医療をするよりも、薬剤師、栄養士なども加わって多職種で連携した方がより質の高い医療を提供できると考えるようになりまりました。質の高いチーム医療を実践するにあたりクリニカルスタッフにも十分な臨床の知識が必要と考えられます。今までの臨床経験を生かしてチーム医療の概念や重要性、そしてチーム医療に十分応えられる臨床的知識を看護学部の学生に教育していきたいと考えております。本学の医看そして薬が融合した本邦有数の総合大学への発展に微力ながらも寄与できるように努力する所存です。

【略 歴】	
平成 5年	大阪医科大学卒
平成16年	大阪医科大学大学院医学博士号取得
平成14年	米国テキサス大学内科学
平成19年	大阪医科大学中央検査部助教
平成21年	大阪医科大学内科学Ⅱ教室講師（准）
平成24年	大阪医科大学内科学Ⅱ教室講師
平成25年	大阪医科大学内科学Ⅱ教室診療准教授



健康科学クリニック  
教授 後山 尚久

大阪医科大学健康科学クリニックは平成26年度より附属病院分院として本院との連携を固めるべく、主に予防医学の実践による疾病早期発見・健康増進・生成を目標として活動しております。私は産婦人科医療、心身医療、漢方医療および看護学の教員・臨床経験から、健康生成と生活の質の向上および人生の幸福の実感に、未病・予防医学、全人医療が果たす役割の重さを学びました。そこで、地域社会の医療の中心となる医科大学の施設として、地域包括医療、先進健診（検診）医療の模範を示すべく未病・初期段階での疾病の発見やその予備軍への幅広い保健指導に尽力してまいりました。ほぼ7年を経過し、おかげさまで診療多科に亘る多数の疾患の発見実績を得、また膨大でしかも時系列の疫学データの蓄積により研究・教育体制も整備されました。

地域包括医療の理想はキョアと健康生成を含んだケアを一体化した予防・治療医学融合体と考えます。予防医学施設の最大の使命は国民の健康寿命の延伸であり、その追求とともにそれを視野に入れた研究・教育体制の構築が医科大学施設としての役割と心得ます。地域社会における健康増進・生成への取り組みに努力し、本学の発展に微力ながら貢献していきたく存じます。

【略 歴】	
昭和54年	大阪医科大学卒業
昭和58年	島根大学医学部（旧島根医科大学）第一生化学助手
昭和61年	大阪医科大学産婦人科助手
平成 元年	米国オクラホマ州立大学Physical ScienceⅡ教官
平成 5年	大阪医科大学産婦人科講師
平成 8年	大阪医科大学産婦人科助教授
平成18年	藍野学院短期大学教授
平成21年	大阪医科大学健康科学クリニック所長代行 寄附講座（未病科学・健康生成医学講座）教授
平成23年	大阪医科大学健康科学クリニック所長
平成28年	大阪医科大学健康科学クリニック教授

## 就任のご挨拶



三島南病院 整形外科  
特務教授 金明博

この度、大阪医科大学三島南病院整形外科特務教授に任命されました。金明博と申す者です。私自身、今回の特務とは病院の再建を果たすと同時に、新たな発展の道筋を立てることと理解しており、微力ながらも他の病院関係者共々、尽力する覚悟です。もう数十年前の話になりますが、私が大阪医科大学整形外科入局時の教授には関連病院出向時に、「病院の設備や手術器具に関して不平・不満を言わずに、今ある器械で工夫をして、できるだけのことしなさい」との教えを受けました。その後、規模や設備が様々な病院で勤務してきましたが、今回も不平・不満は言いつつ、最大限の努力はしたいと考えております（小野村先生、すいません）。

良い病院を作るのは優れた「人」であり、私自身が精進するとともに、知識や技術のみならず人間的魅力にあふれた医療人を育てることに努力する所存です。みなさん、ご批判とともにご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

## 【略歴】

昭和59年 大阪医科大学卒業  
平成9年 大阪医科大学整形外科教室助手  
平成10年 大阪医科大学内講師  
平成13年 大阪医科大学講師  
平成27年 大阪医科大学三島南病院整形外科助教  
平成28年 大阪医科大学三島南病院特務教授



三島南病院 内科  
特務教授 瀧井道明

4月1日付けで三島南病院内科特務教授に就任させて頂きました。また、副院長、内科統括部長も拝命させて頂き、誠に光栄に存じます。旧社会医療法人信愛会新生病院の時代から外来診療あるいは検査担当の非常勤医としての勤務歴は通算10年近くになります。常勤医として心機一転して、責任ある立場として取り組んでいきたいと思ひます。

三島南病院は超高齢化社会を背景として地域包括ケアシステム構想をも見据えた大学附設のケアミックス型病院と位置付けられています。高齢者の方は加齢性変化に加えて複合的な病態疾患を抱えておられることが多いと実感されます。看護学部での4年間は消化器内科学のみならず内科学全般の教育職を担当させて頂いたので、総合診療的、さらには全人的な視野に立つての診療に努めていきたいと存じます。そして、チーム医療、多職種協働を推進して、地域の皆様から信頼される医療体制の構築に取り組みしていきたいと存じます。また、将来的には教育研究病院を目標にしていく方向性にも寄与していきたいと存じます。

就任して間もないのですが、病院をさらに良くしていくという職員の方々の意気込みがひしひしと感ぜられます。病院全体のことを念頭にいれて貢献できるように誠心誠意努力していきたく存じますので、ご指導、ご鞭撻の程何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## 【略歴】

昭和62年 大阪医科大学卒業  
平成11年 大阪医科大学第二内科学教室助手  
平成14年 大阪医科大学第二内科学教室内講師  
平成19年 大阪医科大学第二内科学教室講師  
平成23年 大阪医科大学第二内科学教室診療准教授  
平成24年 大阪医科大学看護学部内科学教授  
平成28年 大阪医科大学三島南病院内科特務教授



三島南病院 内科  
特務教授 鈴木秀治

このたび大阪医科大学三島南病院特務教授を拝命しました。宜しくお願ひ致します。

私は本学卒業後現内科学Ⅲ教室入局し、以後殆どの期間を本学附属病院で臨床の現場に身を置いて学んでまいりました。主に循環器内科領域を中心とし心血管カテーテル治療等に携わってまいりましたが、先進医療を行う中でも「For the patient」の考えを大切にすることを諸先生方に教えて頂きました。

昨年10月から本学附設の三島南病院に勤務していますが、当施設は急性期病棟以外に、回復期、療養型病棟を併せ持つ地域密着型の病院です。4月からは同院副院長を拝命し、より幅広い業務をさせて頂いておりますが、今まで培ってきたことを生かして地域医療に貢献したいと思ひます。

本院とは異なり小規模ゆえのフットワークの軽さを生かして、当施設独自の医療が出来るかと考えています。また新しい視点からの臨床研究も可能と思ひます。大阪医科大学の一員として、今後も臨床、研究、教育、そして社会貢献に尽力していく所存です。今後とも皆様方からのご教授、ご協力の程を何卒宜しくお願ひいたします。

## 【略歴】

平成元年 大阪医科大学卒業  
平成11年 大阪医科大学内科学Ⅲ助手  
平成24年 大阪医科大学内科学Ⅲ講師  
平成27年 大阪医科大学三島南病院特務准教授  
平成28年 大阪医科大学三島南病院内科特務教授

## 定年退職にあたって

数学教室 西村 保一郎

私は34年間に渡り大阪医大に勤務をさせていただきました。数学や統計学の授業を行い、また情報教育の授業のオーガナイズを行ってきました。パソコンが仕事をする上の道具として使い物になり始めた時代から、無くてはならない物へと成長した時期に、私は統計学や情報学の授業などを通してパソコンと関わってきました。

授業以外では研究者の方々が論文を書く際の統計の相談に乗ってきました。数学者は統計学を学びませんので、私は就職して後に統計学を学び始めて、統計の相談の機会などに知識の範囲を少しずつ広げてきました。医学全般では多様な統計の方法が使われていますが、臨床科によって使われる統計の方法に特色があり、医学研究者の一人については、使う統計の方法の種類はそれほど多くないと思います。論文の執筆の際に新たな統計の方法を用いる場合には、それを十分に学習してひとつずつ方法を自分のものにしていけば、統計学は恐れるに足らずと思います。

最後になりましたが、臨床や研究において大阪医大が今後ますます発展されますことを祈念いたします。



## 卒業にあたって

心理学教室 千原 精志郎

昭和45年入学、51年卒業後神経精神病学教室に入局し、平成3年より心理学教室に移り、平成28年定年退職。その間他の病院に出向することもなく、ずっと常勤でしたので、46年間本学にお世話になりました。精神科に入ったときはとにかく、進学課程に移籍したときでも、まだまだ先はながいと思っていましたが、ようやく卒業の日を迎えることができ、邯鄲一炊の夢のような心境です。時間の体験様式でいえば、時間緩慢現象の渦中にあったものが、振り返れば時間加速現象として感じられるようなものです。

精神科医としては生物学的なことより、心理学的なことに興味があり、精神病理学、ことに人間学的精神病理学を志したのですが、実際には難しすぎて力及ばず、酔生夢死の教員生活だったかもわかりません。

高校のときから漢文に興味があり、無為自然の道、無欲恬淡、大賢は大愚に似たりなどと嘯いていましたが、ただの大愚に終わったようです。このような私を温かく見守り育ててくれた大阪医科大学に感謝し、頂いた名誉教授の名をけがさぬように過ごしていく所存です。



### 退任のご挨拶

## 定年退職のご挨拶

病理学教室 辻 求

昭和62年5月に大阪医大第二病理に講師として赴任しました。2年後の平成元年5月から、大阪医大の支援でカルフォルニア大学サンフランシスコ校に1年間留学させて頂きました。平成3年1月に市立伊丹病院中央検査部に就職し、平成11年5月に再び、中央検査部の助教授として、堤啓臨床教授の後を継いで病理診断を担当するために復職しました。その後、定年までの約17年間勤めさせていただきました。この間に中央検査部から病理部の独立、病理学教室との合併と組織が変遷しました。この間に多くの臨床の先生方と知り合いになり、得難い臨床の知識を教えてもらいました。一方、臨床の先生方が学会発表の時に、病理組織で困難を感じないようにとお手伝いすることに心掛けてきました。大学での充実した日々を送ることができたことを感謝しています。

病理診断科は平成20年に厚労省から認定された新しい臨床科ですが、病理診断科が信頼されるような科に成長していくことを期待しています。



## 皆様に感謝

内科学I教室 花房 俊昭

平成12年4月から16年間、大阪医科大学で勤めさせていただきました。この場をお借りして、お世話になりました皆さまに心より感謝申し上げます。また、至らぬことばかりで皆さまにはいろいろご迷惑をおかけしたことを存じます。ご迷惑をおかけした皆さまに深くお詫び申し上げます。

大阪医科大学では、多くの学生、教員、職員、患者さま、同門の方との出会いに恵まれ、毎日が刺激的で本当に楽しい16年間を過ごさせていただきました。振り返ってみれば、多くの皆様に支えられ続けた16年間だったと思います。そのお陰で、私自身としては全力で走りきることができ、悔いのない16年間でした。

本年4月1日からは、堺市立総合医療センターに院長として勤務することになっております。私のようなものが今後も重責を担わせていただけることに感謝し、本学で学ばせていただいた貴重な経験を糧に、勇気と覚悟を持って新たな職務に挑戦する決意しております。今後とも皆様のご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

16年間、本当にありがとうございました。



人事につきましてはデジタルパンフでは  
割愛いたします。

人事につきましてはデジタルパンフでは  
割愛いたします。

人事につきましてはデジタルパンフでは  
割愛いたします。

人事につきましてはデジタルパンフでは  
割愛いたします。

■ 訃報 ■

平成 27 年秋、名誉教授の小野克己先生  
が満 92 歳で御逝去されました。

ここに謹んでご冥福をお祈り致します。



## 2016年度 大阪医科大学LDセンター 研修・講演会予定表

月	日	曜日	時間	内 容	講 師
4	22	金	午前	高学年の子どもへのソーシャルスキル指導①	西岡有香
	6	金	午前	高学年の子どもへのソーシャルスキル指導②	西岡有香
	13	金	午前	高学年の子どもへのソーシャルスキル指導③	西岡有香
5	14	土	午前	発達障害のある子どもの理解と支援(1)～医学の立場から～	小野次朗
	14	土	午後	発達障害のある子どもへの合理的配慮として提案できる支援技術とは	近藤武夫
	28	土	午前	発達障害のある子どもの特性に応じて算数の文章題を教えるには?	山田 充
	28	土	午後	発達に課題のある子どもへの遊びを通じた支援	森田安徳
6	3	金	午前	低学年の子どもへのソーシャルスキル指導①	西岡有香
	7	火	午前	幼児期に経験する体の動きは学習や社会性の土台	芳本有里子
	10	金	午前	低学年の子どもへのソーシャルスキル指導②	西岡有香
	11	土	午前	発達障害の子どもにみられる「見る力」の問題とその指導 基礎編	奥村智人
	11	土	午後	ペアレント・トレーニングを学ぼう	野口啓示
	17	金	午前	低学年の子どもへのソーシャルスキル指導③	西岡有香
	25	土	午前	発達障害のある子どもの理解と支援(2)～教育の現場では～	竹田契一
	25	土	午後	合理的配慮の先進国に学ぶ ユニバーサルデザインとインクルーシブ教育とは	バーズ亀山静子
30	木	午前	子どもの「見る」「聞く」力の理解とその指導	竹下 盛	
7	5	火	午前	子どもが取り組む手を使う作業に大人はどう援助するか	芳本有里子
	10	日	午前	発達障害の子どもにみられる「見る力」の問題とその指導 実践編(1)	奥村智人 増本利信
	10	日	午後	キレやすい子どもの理解と対応 アンガーマネージメントとは	本田恵子
	23	土	午前	発達障害のある子どもにみられる「見る力」の問題とその指導 実践編(2)	奥村智人 芳本有里子
	23	土	午後	幼児期の発達障害のある子どもの理解と支援	里見恵子
8	6	土	午前	限局性学習症 読字と書字の障害を伴う子どもの理解と指導	水田めぐみ
	6	土	午後	限局性学習症 算数の障害の理解と指導	若宮英司 栗本奈緒子
	13	土	終日	視覚能力のアセスメントとトレーニング	奥村智人 三浦朋子 茅野晶敬
	27	土	終日	読み書きにつまずく子どもへの指導	村井敏宏
9	16	金	午前	幼児期の子どもへのソーシャルスキル指導①	西岡有香
	23	金	午前	幼児期の子どもへのソーシャルスキル指導②	西岡有香
	24	土	終日	一事例で学ぶ発達障害の評価と指導計画	栗本奈緒子 水田めぐみ 西岡有香
	30	金	午前	幼児期の子どもへのソーシャルスキル指導③	西岡有香
10	8	土	午前	LD・ADHD等の心理的疑似体験プログラム 第3版による子どもの理解(1)	西岡有香
	8	土	午後	「しんどい」「学校行きたくない」は急いでいるわけではありません	金 奈子
	22	土	午前	アートを通して行う発達障害のある子どもの心のケア	藤井昌子
	22	土	午後	知能検査の解釈のために必要な知識を学ぶ	大六一志
	31	月	午前	子どもの「読む力」「書く力」の理解とその指導	水田めぐみ
11	5	土	午前	(仮)子どもの読み書きの発達	高橋 登
	5	土	午後	(仮)CARDの理解と利用 結果の解釈に向けて	奥村智人 栗本奈緒子
	8	火	午前	高学年の子どもへのソーシャルスキル指導①	西岡有香
	22	火	午前	高学年の子どもへのソーシャルスキル指導②	西岡有香
	26	土	午前	心理的疑似体験による子どもの理解(2)話す聞くの困難	西岡有香
26	土	午後	(仮)言語発達と言語学習	井狩幸男 田邊宏樹	
29	火	午前	高学年の子どもへのソーシャルスキル指導③	西岡有香	
12	2	金	午前	低学年の子どもへのソーシャルスキル指導①	西岡有香
	9	金	午前	低学年の子どもへのソーシャルスキル指導②	西岡有香
	10	土	午前	(仮)構音の指導～家庭でできること～	松尾育子
	10	土	午後	(仮)テストで知る認知特性とは～認知特性は子どもを知る手がかり～	松田 修
	16	金	午前	低学年の子どもへのソーシャルスキル指導③	西岡有香
1	14	土	終日	見る力を育てるビジョン・アセスメント「WAVES」 1日研修	奥村智人 三浦朋子
	21	土	午前	障害のある子どもの嚙下・食事摂取の問題の機序と対応	有田憲司
	21	土	午後	(仮)ダウン症など知的障害のある子どもの言語・コミュニケーションの指導	水田めぐみ 中島順子
	28	土	午前	(仮)自閉性障害のある人の中学からの課題	鳥居深雪
	28	土	午後	(仮)ワーキングメモリー、実行機能はトレーニング可能か	齋藤 智
	30	月	午前	かぞえる・くらべる	栗本奈緒子
2	4	土	終日	(仮)発達障害のある子どもの粗大運動・巧緻性のつまずきを理解し育てるには	木村 順
	5	日	午前	(仮)ワーキングメモリー、実行機能の評価	湯澤正道
	5	日	午後	(仮)ワーキングメモリーに着目した支援プログラムー学習と生活を支える	湯澤美紀
	24	金	午前	幼児期の子どもへのソーシャルスキル指導①	西岡有香
25	土	午後	(仮)睡眠障害を理解し基本的な生活習慣をみなおそう	中井昭夫	
3	3	金	午前	幼児期の子どもへのソーシャルスキル指導②	西岡有香
	10	金	午前	幼児期の子どもへのソーシャルスキル指導③	西岡有香
	11	土	午前	(仮)こんなときは心が疲れているとき～発達障害のある子どもが精神科を受診するとき	田中 究
	11	土	午後	(仮)合理的配慮によって日本の教育現場はどう変化してきたか	樋口一宗 竹田契一

申し込み用紙はLDセンターホームページからダウンロードしていただけます。(http://www.osaka-med.ac.jp/deps/ldc/index.html)

## ＝開催報告＝ 大阪医科大学市民公開講座

平成27年度 第7回 平成28年1月16日(土)14時～ 臨床第一講堂

- 『認知症を予防しよう！～認知症にならないために今できること～』  
神経精神医学教室 助教 富樫 哲也 (写真④)
- 『認知症に使用されるお薬について』 附属病院薬剤部 濱田 武
- 『みんなで支えよう 認知症の人の暮らし』 附属病院看護部 浅島 有紀



平成28年度 第1回 平成28年4月16日(土)14時～ 臨床第一講堂

- 食道・胃がんの外科治療 一般・消化器外科学教室 講師 河合 英 (写真④)
- 消化器がんの術前、術後補助化学療法について 薬剤部 片岡 憲昭
- 消化器手術後の日常生活について 看護部 栗原 由梨



平成28年度の第2回以降の予定は下表の通りです。

## 平成28年度 大阪医科大学市民公開講座 開催予定一覧

回数	開催日	演 題	担当部署	講師
第2回	5月21日 (土)	お口の中の痛み！それってカンジダ症？	口腔外科学教室	准教授 寺井 陽彦
		嚥下が難しい患者さんの服薬の工夫	薬剤部	森南 沙那恵
		お口の健康を保って健康的な生活を	看護部	檀上 明美
第3回	6月18日 (土)	脳卒中後遺症に対する最新治療とリハビリテーション	リハビリテーション医学教室	講師 仲野 春樹
		病院で受けるサービス～医療サービスと患者サービス～	薬剤部	小林 豊英
		自宅でできる脳卒中後のリハビリテーション	看護部	松本 由香
第4回	9月17日 (土)	南海トラフ巨大地震を控えて、今、私たちが取り組んでいること ～超急性期から復興期まで～	救急医学教室	准教授 富岡 正雄
		備えあれば、憂いなし ～普段からできる‘お薬の情報管理’～	薬剤部	近藤 昭志
		災害時の生活に備える、こころの準備、ものの準備	看護部	濱田 恵美
第5回	11月19日 (土)	最近まぶたが重くて開きにくくありませんか？ 眼瞼下垂についてのお話	形成外科学教室	診療准教授 岡田 雅
		手術を受ける前に確認しておきたいお薬のこと	薬剤部	島本 玲奈
		日常生活の中で眼瞼下垂の手術前後に気をつけたいこと	看護部	吉田 愛
第6回	12月17日 (土)	治る脳卒中、治す脳卒中～寝たきりにならないために～	脳神経外科学教室	准教授 宮地 茂
		脳卒中を予防するお薬の話	薬剤部	松本 裕喜
		日常生活と脳卒中について	看護部	松本 由香
第7回	平成29年 1月21日 (土)	腎臓を守ろう	内科学Ⅲ教室	講師 森 龍彦
		お薬と腎臓の話	薬剤部	山口 修子
		腎臓とのおつき合い	看護部	井上 智恵

※この予定は変更になることがあります。詳細は本学ホームページにてご確認願います。

大阪医科大学 総務部総務課

## 科学研究費交付状況について

平成28年度の科学研究費交付状況を別紙のごとくご報告させていただきます。今年度は、研究者やURAの辻山特務教授をはじめ研究推進課など職員の皆様方のご協力のお陰で、昨年に比して、新規分については応募者数、採択件数、採択率、直接経費や間接経費すべての項目で上回ることができました。特に応募件数以上に採択率が上昇したことは特筆すべきことと思います。継続分が昨年に比べて少し減少したことは残念ですが、今後継続分も増加することと思います。間接経費の増加分の一部は研究機器の整備事業に使用させていただくよう法人にお願いしているところです。今後、学長として「教職協働」により競争的外部研究費のさらなる獲得を目指してまいりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

(学長 大槻 勝紀)

### 【新規】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
応募件数	179件	179件	268件
採択件数	34件	33件	57件
採択率	19.0%	18.4%	21.3%
直接経費(研究者)	47,400千円	50,700千円	85,200千円
間接経費(法人)	14,220千円	15,210千円	25,560千円
合計	61,620千円	65,910千円	110,760千円

※ 交付内定額実績

### 【新規+継続】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
応募件数	254件	256件	332件
採択件数	109件	111件	121件
採択率	42.9%	43.2%	36.5%
直接経費(研究者)	126,300千円	129,900千円	163,200千円
間接経費(法人)	37,890千円	38,970千円	48,960千円
合計	164,190千円	168,870千円	212,160千円

### 新規採択課題 科学研究費助成事業 平成28年度新規採択課題および継続課題について

平成27年11月に申請した267件の研究計画に対し、平成28年4月1日付で57件の採択がありました。

研究種目	応募件数	採択件数
新学術領域研究(公募研究)	1	0
基礎研究(B)	10	1
基礎研究(C)	157	40
挑戦的萌芽研究	35	3
若手研究(A)	3	0
若手研究(B)	61	13
合計	267	57

\* 基礎研究(C) (特設分野) (申請1件)の交付内定は7月の予定。

\* 研究課題番号等 ※ 所属・職名は交付内定時のもの ※ 内定時点で退職等により不在の研究代表者の所属・職名は応募時のもの

#### ■基礎研究(B)

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	平成26年度	平成27年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
看護基礎能力の評価指標開発とBLの進化によるプロフェッショナル教育モデルの確立	看護学部看護学科	講師	西園 貞子	5,100	3,700	3,200	0	0

#### ■基礎研究(C)

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	平成26年度	平成27年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
リーチングモデルを用いた眼球運動電脳型新規視野計の高精確化	眼科学	講師	植木 麻理	1,300	1,500	800	0	0
非天然アミノ酸を使用したin vivoでのシナプト-タグミンの立体構造変化の検出	生理学	講師	坂田 宗平	1,400	1,200	1,200	0	0
バイオドラッグデリバリーシステムを用いた新規心筋再生治療法の開発	実験動物部門	講師	伊井 正明	1,100	1,100	1,400	0	0
リンパ球浸潤肝臓における、腫瘍免疫とオートファジー、鉄代謝との関連	病理学	講師	竹下 篤	2,000	800	800	0	0
インターフェロン反応によって確立される抗デングウイルス状態の分子基盤の解析	微生物学	講師	鈴木 陽一	1,900	1,100	700	0	0
関節リウマチによる動脈硬化病変の形成促進メカニズムの解明と危険因子の網羅的探索	内科学I	講師	武内 徹	1,000	1,300	1,100	0	0
新規タキサンチン誘導マーカ-の臨床応用に向けて	一般・消化器外科学	非常勤講師	田中 寛	1,200	1,000	1,400	0	0
糖尿病によるO-GlcNAc修飾の増加が胃及び大腸癌発症に与える影響の検討	内科学II	教授	磯口 和秀	1,300	1,200	1,200	0	0
T1マッピング法を用いた心筋症の組織性状および局所壁運動の評価に関する包括的検討	内科学II	講師	神崎 裕美子	2,400	800	500	0	0
IgG4関連の心血管病変の実態および臨床経過に関する検討	内科学II	教授	石坂 徳和	1,500	1,500	700	0	0
皮膚癌発生併発腸癌の病態形成機序の解明と免疫制御に向けたバイオマ-の探索	内科学I	専門教授	横野 茂樹	1,100	1,200	1,200	0	0
腎臓癌患者への急激な塩分制限が腎及び交感神経系に与える影響の検討	内科学II	講師	森 隆彦	1,200	1,000	700	0	0
多発性硬化症の治療ターゲット同定を目指した核内受容体TRβ1を介する分子病態解明	内科学I	講師	中嶋 秀人	1,700	1,100	800	0	0
新たな自己抗原INS-IGF2を用いた1型糖尿病発症機序の人間比較	内科学I	助教	金剛 規夫	1,300	2,000	500	0	0
AluI道別損取患者の感染感受性に対する遺伝的効果	中央検査部	助教	朝井 章	1,600	700	1,300	0	0
母乳脂質濃度調節における核内受容体およびコホ-キサエン酸の相互作用の解明	小児科学	講師	蘆谷 公隆	1,900	900	900	0	0
統合失調症と双極性障害の間に何かがあるのか?全ゲノムスクリーニングによる遺伝的解明	神経精神医学	講師	金子 徹文	3,200	200	400	0	0
風転移性乳癌細胞は転移抑制性miRNAsをexosomeに内包して細胞外に捨てる	功労教授	伊藤 裕子	2,400	500	500	0	0	
4型胃癌における癌分注膜小胞由来の新規バイオマ-の検討	一般・消化器外科学	講師(准)	李 相雄	1,400	900	1,300	0	0
時系列画像データに基づいた肝切除後の肝再生の数理学的解析	一般・消化器外科学	非常勤講師	山本 君代	1,400	1,200	700	0	0
Warburg効果調節新規がん遺伝子PTBP1の機能解析による胆管癌発症機序の解明	一般・消化器外科学	講師(准)	朝原 光弘	1,200	1,300	1,200	0	0
虚血心筋組織特異的送達ペプチドを用いた虚血性心不全の新規治療法の開発	胸外科	助教	神吉 佐智子	1,600	1,000	1,000	0	0
慢性心筋虚血に対する温度感応ゲル化ポリマ-を担体とした脂肪細胞組織由来幹細胞治療	胸外科	助教(准)	打田 裕明	1,100	1,200	1,200	0	0
脳神経外科手術への応用を目指した新規AR型3次元画像診断法の開発	脳神経外科学	診療准教授	田村 隆史	1,600	1,200	900	0	0
神経障害性痛におけるグリア細胞の役割の解明と新規治療薬の開発	麻酔科学	教授	南 敏明	2,900	400	500	0	0
癌細胞選択的破壊(腫瘍細胞局所動注+中性子照射)による新規照射温存療法	泌尿器科学	教授	東 治人	400	200	900	1,500	700
固期的核酸デリバリーキャリアを用いたmiRNA-145による膀胱癌治療	泌尿器科学	診療准教授	稲元 輝生	800	900	900	900	0
アルコールは精巣の細胞にMitophagyを誘導する一男性不妊治療の基礎的研究一	解剖学	講師(准)	MARILYNNE SALHEID	1,500	1,400	600	0	0
子宮胎盤形成不全症の新たな治療一骨髄由来内皮前駆細胞の血管形成と新規抗凝薬一	産婦人科学	助教	神吉 一良	1,200	1,200	1,300	0	0
卵巣癌のEMTおよび腹膜中皮のMMTに關与するmiRNAの解明と制御に向けた研究	産婦人科学	准教授	寺井 雅人	1,500	1,400	700	0	0
肥満による子宮体がん癌関連線維芽細胞活性化メカニズムの解明とその制御	産婦人科学	非常勤医師	高井 雅敏	900	1,500	1,200	0	0
GPIIb/IIIa型蛋白質(CD24)のラフト形成と化学療法抵抗性のメカニズム解析	産婦人科学	講師	林 正美	900	1,100	1,600	0	0
Hunt症候群の発症および予後へのVZV特異的細胞性免疫能の関わりについての研究	耳鼻咽喉科学	准教授	萩森 伸一	1,400	900	900	0	0
耳下腺癌における悪性度の指標となるバイオマ-の研究一個別化治療を目指して一	耳鼻咽喉科学	教授	河田 了	1,300	1,000	1,200	0	0
PC3のサーチュイン遺伝子賦活化を介した神経保護作用と視神経疾患への応用	眼科学	診療准教授	奥 英弘	1,300	1,200	1,100	0	0
強直性脊髄炎に対する低侵襲治療の開発FGF2による早期癒着抑制効果の証明	形成外科学	講師	徳 隆志	1,400	1,200	1,000	0	0
注酸・加熱処理と選択的レーザー治療法を応用した次世代骨誘導チタンメッシュの創成	口腔外科学	教授	植野 高章	1,000	500	500	0	0
口腔ケアに関する看護技術教育プログラムの開発	看護学部看護学科	教授	道重 文子	1,400	1,800	500	0	0
交代勤務が困難な短時間勤務者の活用プログラムの開発	看護学部看護学科	講師	川北 敬美	1,300	800	500	900	0

(単位:千円)

#### ■挑戦的萌芽研究

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	平成26年度	平成27年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
骨形成抑制因子スクロスタチンは血管石灰化を抑制するか-多臓器連関長期コホ-ト研究	衛生学・公衆衛生学I・II	教授	玉置 淳子	2,400	500	0	0	0
エコーを用いた大腸内部の定量的評価による便秘時のアセスメント方法とケア基準の開発	看護学部看護学科	准教授	松尾 淳子	1,500	500	500	0	0
高齢で繊維化している下腿リンパ浮腫を改善するために効果的な圧迫療法の開発	看護学部看護学科	教授	赤澤 千春	1,500	900	400	0	0

■若手研究(B)

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
評価型シミュレーターを用いた気道管理器具侵襲性の網羅的評価と新規開発の基礎研究	麻酔科学	助教	駒澤 伸泰	900	700	0	0	0
キナーゼ活性化剤が導く癌治療への新たな展望	解剖学	助教	田中 義久	1,400	600	1,000	0	0
DNA/RNAミスマッチ認識蛋白質を用いた高精度転写による相同miRNAの鑑別	生化学	助教	福井 健二	1,000	900	0	0	0
血循環停止に起因する組織中の生理活性物質濃度の経時変化と法医学診断への応用	法医学	助教	齊藤 高志	1,900	1,100	0	0	0
脂肪組織由来幹細胞を用いた膵膵性膵炎に対する新規治療法のモデルマウスにおける研究	内科学I	助教	小谷 卓史	1,200	1,100	0	0	0
骨髄由来幹細胞前駆細胞Fibrocyteは気管支肺動脈形成における肺線維化に関与	周産期センター(INICU)	助教(准)	福富 直	700	700	0	0	0
ドラッグリポジショニングによる放射線治療に対する予防・軽減薬の開発	放射線医学	助教	吉川 信彦	1,600	900	500	0	0
ヒト子宮筋層組織皮下移植マウスモデル作成とデュリンによる非ホルモン治療の開発	産婦人科学	助教	鈴木 裕介	1,100	1,000	1,000	0	0
HPVインテグレーションと宿主細胞分泌エキソソームによる子宮頸癌発癌機構の解明	産婦人科学	助教	倉 史豊	1,500	1,500	0	0	0
ラット未熟胎膜症モデルにおける電気生理学的研究	眼科学	助教	河本 良輔	1,200	1,200	0	0	0
加齢黄斑変性に対する眼科治療薬の開発	眼科学	助教	福本 寛樹	1,300	1,300	0	0	0
救急外来における高齢者重症細菌感染症の早期診断における新規バイオマーカーの開発	救急医学	非常勤医師	今井 義朗	500	500	0	0	0
意識障害者の意識的な感情表出の解明:表情分析を用いた基礎的研究	看護学部看護学科	助教	肥後 雅子	2,300	700	0	0	0

\* 研究課題番号順 \* 金額は交付決定時のもの \* 所属・職名は平成28年4月1日現在のもの

継続課題

■基礎研究(B)

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
脳放射線壊死の病態解明と新規治療法の確立	がんセンター	特別職務担当教員(教授)	宮武 伸一	3,600	0	0	0	0
骨・血管連関に基づき骨折の動脈硬化進展への影響を解く大規模無作為標本20年追跡	衛生学・公衆衛生学I-II	教授	玉置 淳子	6,500	600	0	0	0

■基礎研究(C)

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
ゲージ理論の精密化と4次元トポロジー	数学	講師	中村 信裕	500	0	0	0	0
医師の利他的行動における動機探察とプロフェッショナリズム教育への応用に関する研究	地域総合医療科学寄附講座	特別任命教員教授	鈴木 富隆	1,100	0	0	0	0
セクシュアリティの豊かな発達を促す教育プログラムの開発	看護学部看護学科	講師	西頭 知子	1,000	0	0	0	0
抗癌剤毒性軽減における熱ショック蛋白質HSP190の構造機能相関の解明とその応用	化学・生体分子学	講師	境 島子	1,300	0	0	0	0
アトピー皮膚炎患者を抱える家族のためのグループ療法(CARE-AD)の開発	皮膚科学	非常勤講師	上田 英一郎	1,400	0	0	0	0
動的・機能的構造情報に基づく銅/トバキニン含有アミン酸化酵素の反応解析	生化学	助教	村川 武志	1,300	0	0	0	0
ATP合成酵素VoV1内の2つの回転子モーターの運動-駆動力伝達の仕事	物理学	講師	古池 晶	700	0	0	0	0
モルフォゲンヘッジホッグによる初期胚の細胞動態制御機構の解析	微生物学	非常勤講師	小田 康子	800	0	0	0	0
NPHP1発症型における細胞極性と細胞骨格の関与〜ヒト網膜の上皮細胞株樹立	解剖学	講師	杉山 紀之	1,600	0	0	0	0
肺循環評価の新しい評価法の開発と診断応用-波動解析法を応用した肺動脈圧測定法の評価	胸外科	専門教授	根本 慎太郎	1,400	0	0	0	0
急性肝不全における肥満細胞セリンプロテアーゼ(キマーゼ)の役割	一般消化器外科学	講師	廣川 文樹	1,200	0	0	0	0
キマーゼ阻害薬-MMP阻害薬を用いた肝臓閉塞症候の予防および治療効果の検討	一般消化器外科学	非常勤講師	米田 浩二	1,200	0	0	0	0
劇症肝炎におけるキマーゼ阻害薬の有効性の検討	教育センター	専門教授	林 道廣	1,300	0	0	0	0
小児心臓血管外科領域における「吸収-再生-成長」可能なパッチ材料の開発	胸外科	講師(准)	小澤 英樹	1,100	0	0	0	0
ヒト心臓間質筋細胞由来幹細胞を用いた心血管組織再生治療のための研究	胸外科	教授	藤岡田 敬弘	900	0	0	0	0
腫瘍指向性ホウ素クラスター修飾コウジ酸を用いたホウ素中性子捕捉療法への有用性	脳神経外科学	講師	川端 信司	800	0	0	0	0
創薬分子デザインによる薬物障害発症および進行におけるキマーゼの役割	脳神経外科学	教授	黒岩 敏彦	1,200	0	0	0	0
次世代の5-ALA光線力学診断および治療機器の開発	脳神経外科学	診療准教授	根本 宜永	1,200	0	0	0	0
難治性放射線壊死の克服 ベバシズマブ治療とbeyond bevacizumab	脳神経外科学	講師	古瀬 元雅	1,000	0	0	0	0
免疫グロブリン大量療法の高効率化を目標としたAβ活性化マクロファージ抑制剤の開発	血液浄化センター	准教授	能見 勇人	900	0	0	0	0
脳神経分泌エキソソームによる癌微小環境制御機構の解明と次世代がん治療法の開発	産婦人科学	講師(准)	佐々木 浩	1,300	0	0	0	0
スギ花粉症に対する経リンゴ節免疫療法の治療応用-皮下および皮下免疫療法との比較-	耳鼻咽喉科学	診療准教授	寺田 哲也	1,300	0	0	0	0
臓器移植看護における看護師の倫理的実践の進化-アクションリサーチを用いて-	看護学部看護学科	教授	林 優子	2,200	0	0	0	0
高齢者世代が参画する地域のつながりを重視した効果的な子育て支援プログラムの開発	看護学部看護学科	准教授	草野 恵美子	600	1,400	0	0	0
特別支援学校において医療的ケアを行う看護師の専門性を高める支援プログラムの構築	看護学部看護学科	教授	泊 祐子	700	0	0	0	0
補欠分子族含有酵素におけるプロトン・電子移動の協同制御機構の解明	化学	教授	林 秀行	1,200	1,200	0	0	0
メタボリックシンドロームによる薬物障害発症および進行におけるキマーゼの役割	大学院医学研究科	教授	高井 真司	1,200	1,200	0	0	0
妊婦の尿中バイオマーカーと血圧値の変化及び子どもへの食嗜好に関するコホート調査	衛生学・公衆衛生学I-II	講師	池原 賢代	500	800	0	0	0
メタボリック症候群を用いた高精神薬多剤併用による突然死の病態解明と法医学診断への応用	法医学	准教授	佐藤 真子	1,800	1,100	0	0	0
心筋症例における血清FGF23-α-Klothoと心リモデリングの関連について	内科学II	講師(准)	森田 亮寛	1,300	600	0	0	0
心サルコイドーシスにおける樹状細胞ウイルス感染の関与の検討	教育センター	専門教授	寺崎 文生	1,100	1,300	0	0	0
網羅的抗体解析を用いた劇症1型糖尿病早期診断のための特異的血清マーカーの開発	-	名誉教授	花房 俊昭	1,400	1,200	0	0	0
インフルエンザ罹患後の症状性・無症状性心機能障害の発症頻度とその経過	内科学II	講師	伊藤 隆英	1,700	200	0	0	0
小児肥満性肝疾患の抗酸化療法における新規酸化ストレス評価法の検討	内科学III	教授	玉井 浩	1,000	900	0	0	0
紫外線性DNA損傷の修復異常で発症する遺伝性光線過敏症の放射線安全性に関する研究	皮膚科学	教授	森脇 真一	1,000	800	0	0	0
Warburg効果関連miRNAおよび標的遺伝子群の同定と臨床応用の確立	附属病院	教授	内山 和久	1,300	1,100	0	0	0
血管内治療用ロボットの開発	脳神経外科学	准教授	宮地 隆	1,400	700	0	0	0
脳腫瘍治療前後のPET代謝画像を用いた画像解析による早期治療効果判定法の開発	脳神経外科学	非常勤医師	松下 葉子	1,800	600	0	0	0
半月板損傷におけるヘパラン硫酸およびその酵素の働きと新規治療法の開発	整形外科	助教	大概 周平	1,200	800	0	0	0
半覚醒状態への挑戦〜脂肪肝細胞オノDSD5技術を駆使した新規テラノイド療法〜	泌尿器科学	講師	高野 健	600	700	700	700	0
抗癌剤誘発性の胆管機能不全に対するテストステロンを用いた予防法確立に向けた検討	産婦人科学	非常勤講師	田辺 晃子	1,300	1,100	0	0	0
脳腫瘍における膜型エストロゲン受容体GPR30を標的としたEMT現象の抑制	産婦人科学	助教	藤原 聡枝	1,100	1,200	0	0	0
アブソロン4の遺伝子発現との関与と、その制御による治療	眼科学	講師	喜田 照代	1,100	800	0	0	0
特異性黄斑上膜の発症機序に関する基礎的研究	眼科学	教授	池田 恒彦	1,300	1,200	0	0	0
看護の組織論理に関する理論的・実証的研究	看護学部看護学科	准教授	小林 道太郎	1,300	800	0	0	0
再発乳がん患者のがんとともに生きる力を支える心理社会的看護介入プログラムの開発	看護学部看護学科	教授	鈴木 久美	1,200	900	900	0	0
在宅重症心身障害児の社会化を図る個別教育支援プログラムの開発	看護学部看護学科	准教授	竹村 淳子	800	500	500	0	0
3次元分岐アニメーションによる安全な分娩のためのコミュニケーション支援ツール開発	看護学部看護学科	教授	佐々木 綾子	300	500	0	0	0

■挑戦的萌芽研究

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
ボツリヌス毒素を用いた筋弛緩による中枢神経の組織構造変化に関する研究	リハビリテーション医学	教授	佐浦 隆一	400	0	0	0	0
低酸素細胞標識PET分子イメージングで、KORTUCの分布分布図向上を可視化研究	放射線医学	助教	新保 大樹	1,000	500	0	0	0
全身麻酔による呼吸抵抗及び呼吸リアクタンスの変化	解剖科学	助教	中平 淳子	500	0	0	0	0
結晶構造から探るS. mutans由来新規タンパク質による病原性獲得機構の解明	解剖学	講師(准)	平田 あずみ	800	600	0	0	0

■若手研究(B)

(単位:千円)

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
肢体不自由児の性教育リテラシーの育成-ライフスキルの習得へのアクションリサーチ-	看護学部看護学科	助教	曾我 浩美	500	0	0	0	0
キマーゼの非アルコール性脂肪肝炎におけるメカニズムの解明	一般消化器外科学	助教	田代 幸太郎	900	0	0	0	0
Blalock-Tausig shuntの人工血管流量を調節するデバイス開発	胸外科	非常勤医師	佐々木 啓康	900	0	0	0	0
5-ALA光線力学治療によるグリオーマ幹細胞の治療抵抗性の克服	脳神経外科学	非常勤医師	鶴岡 善宏	1,000	0	0	0	0
摂食コントロールによる新しい炎症性腸疾患治療	内科学II	助教(准)	岡田 悠彦	1,500	0	0	0	0
ERストレス誘発性細胞死の抑制を標的としたNSAIDs起因性小腸潰瘍治療戦略	消化器内視鏡センター	助教(准)	小嶋 敏一	1,100	500	0	0	0
小児炎症性腸疾患における血中インフルエンザウイルス抗体の測定意義	小児科学	助教(准)	青松 友樹	1,200	900	0	0	0
新規ホウ素化ポリリンの光線力学治療およびホウ素中性子捕捉療法への有用性	脳神経外科学	助教	平松 亮	1,300	0	0	0	0
不育症に対する新たな治療〜骨髄由来血管内皮前駆細胞による血管再生と新規抗血管薬〜	産婦人科学	講師	藤田 太輔	1,000	1,200	0	0	0
脳放射線壊死が脳腫瘍の増殖・浸襲能に与える影響の解明:放射線治療は再発の温床か?	脳神経外科学	非常勤医師	弘田 祐己	900	0	0	0	0

## 研究助成金の内定・採択について

(平成28年3月31日現在)

### 関連学術集会支援 (日本RNA学会)

学術集会名称	氏名(所属名・職名)	助成金額
第4回 Ribosome Meeting	吉田 秀司 (物理学・准教授)	10万円

### 平成28年度笹川科学研究助成 (公益財団法人 日本科学協会)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
テストステロンによるフェロモン応答神経回路の調節	善方 文太郎 (生理学・助教)	73万円

### 平成27年度がん研究助成奨励金 (公益財団法人 大阪対がん協会)

研究題目	氏名(所属名・職名)	助成金額
内分泌療法を受けている若年乳がん患者の療養生活体験	四方 文子 (大学院看護学研究科・大学院生)	30万円

### 2016年度4月助成 がん研究助成 (公益財団法人 大阪コミュニティ財団)

研究テーマ	氏名(所属名・職名)	助成金額
悪性グリオーマ幹細胞を標的化するδ-aminolevulinic acid(ALA)併用X線増感治療法の開発	野々口 直助 (脳神経外科学・助教)	100万円

### 第7回(2015年度)ロート女性健康科学研究会助成医学研究 (女性健康科学研究会)

研究テーマ	氏名(所属名・職名)	助成金額
無症候性高尿酸血症の女性症例に対する尿酸降下療法が、腎機能および血清fibroblast growth factor 23/α-Klothoに与える効果の検討	藤田 修一 (内科学Ⅲ・助教)	30万円

### 平成28年度共同研究員 (大阪大学蛋白質研究所)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
中性子結晶構造解析に基づく銅/TPQ含有アミン酸化酵素のコンフォメーション制御機構の解析	村川 武志 (生化学・助教)	—

○研究推進課から応募申請しました公募助成金等のうち、内定・採択を確認できたもの、及び研究者より直接内定・採択の情報提供のあったものを掲載しています。

## 寄付金報告

**ご寄付のお願い** 大阪医科大学では、創立90周年記念事業および教育環境整備事業など各種事業へのご寄付を募集しています。皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

- **現在募集中の募金の種類**
- ① 創立90周年記念事業募金
  - ② 教育環境整備事業募金
  - ③ 大阪医科大学基金
  - ④ 別館講堂「机募金」

それぞれの募集要項は、本学ホームページ(<http://www.osaka-med.ac.jp/>)の「募金事業のご案内」から、お入りください。

**大阪医科大学へのご寄付は、税制上の優遇措置(寄付金控除)を受けることができます。**

**【税制上の優遇措置とは】**

(個人の方のご寄付) 平成23年度税制改正により、既存の「所得控除」に加え、寄付者の選択により新たに「税額控除」の適用を受けられるようになりました。寄付金の約40% (ただし、所得税の25%が限度) が所得税額から控除されます。

(法人の方のご寄付) 一般の寄付金の損金算入限度額と別枠で損金算入することができますし、あるいは「受配者指定寄付金」として寄付金全額が損金に算入できます。

● **遺贈・相続財産によるご寄付も承っております。**

本学への遺贈または相続財産によるご寄付は、相続税の対象外となります。

**1. 遺贈による寄付**

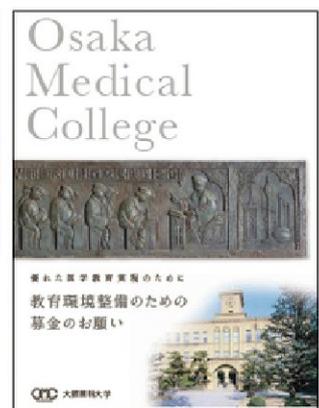
遺言者が遺言書により、ご自身の財産の全部または一部を特定の人や法人に譲渡することを遺贈といいます。学校法人大阪医科大学へ遺贈した財産は相続税の対象外となり非課税となります。

**2. 相続財産による寄付**

相続人が相続財産の一部を大阪医科大学の教育・研究、または学生のために寄付されることです。

相続人は、相続財産を相続税の申告期限内(ご逝去された翌日から10ヶ月以内)に大阪医科大学に寄付し申告することにより、そのご寄付は相続税の課税額から除外され非課税となります。

※お問合せは募金推進本部 (TEL:072-684-7243 (直通) E-mail:kikin@osaka-med.ac.jp 担当 田原) まで。



## ■大阪医科大学基金へのご寄付（寄付金申込者）

平成28年1月1日～平成28年2月29日までの間の寄付金入金件数は42件、金額は2,091,000円です。ここに寄付金申し込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。なお、募集当初から平成28年2月29日までの寄付金入金件数は730件、金額は86,817,200円です。（順不同、敬称略）

○森 浩志 ○大野 浩二 ○谷川 允彦 ○臼田 寛 ○村上 澄子 ○大野 博司 ○袖岡 秀幸 ○井口 健 ○森本 真佐子  
○木村 正士 ○金森 ひろ子 ○森本 純司 ○西山 裕子 ○小牟田 美幸 ○守本 俊子 ○大槻 勝紀 ○米田 博  
○池本 敏行 ○植田 政嗣 ○出坂 秀雄 ○西本 泰久 ○石川 俊明 ○辻 求 ○田原 一也 ○奥田 準二 ○南 敏明  
○西村 保一郎 ○朝日 通雄 ○寺井 陽彦 ○高井 七重 ○澤村 律子 ○藤岡 重和 ○大阪電材株式会社  
○医療法人毅峰会吉田病院 ○佐野 浩一 ○田中 陽子 ○田中 和子 ○田中 清子 ○佐々木 香 ○植野 高章 ○吉永 花子  
※毎年継続したご寄付の申し込みは、「大阪医科大学基金（通称・フレンズ基金）」で承っております。なにとそご支援賜りますようお願い申し上げます。

## ■教育環境整備事業募金へのご寄付（寄付金申込者）

平成28年1月1日～平成28年2月29日までの間の寄付金入金件数は2件、金額は4,000,000円です。ここに寄付金申し込みをいただきました方々に感謝の意を表します。

なお、平成27年4月1日から平成28年2月29日までの寄付金入金件数は19件、金額は31,100,000円です。

○匿名 2件

## ■創立90周年記念事業募金へのご寄付（寄付金申込者）

平成28年1月1日～平成28年2月29日までの間の寄付金入金件数は5件、金額は400,000円です。ここに寄付金申し込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。なお、募集当初から平成28年2月29日までの寄付金入金件数は672件、134,987,000円です。（順不同、敬称略）

○宮本 勝治 ○寺井 義人 ○不二サッシ株式会社 ○匿名 2件

## ■別館講堂「机募金」へのご寄付（寄付金申込者）

平成28年1月1日～平成28年2月29日までの間の寄付金入金件数は1件、金額は300,000円です。ここに寄付金申し込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成28年2月29日までの寄付金入金件数は57件、21,600,000円です。

○杉多 嗣之

## ■ご支援をお考えの皆様へ

### ご寄付のお手続き方法

- 1** 大阪医科大学のホームページよりダウンロードした寄付申込書にご記入のうえ、FAXまたはご郵送ください。  
●ご郵送先：〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号 ●FAX：072-684-7100

- 2** 下記口座のいずれかにお振込みをお願いいたします。

受取人口座名義はいずれも「大阪医科大学募金口」	
(1)振込先 三井住友銀行高槻支店 口座番号 普通預金 2161078	(2)振込先 ゆうちょ銀行 ①ゆうちょ銀行から振り込む場合 口座番号 00940-8-319151 ②ゆうちょ銀行以外の金融機関から振込む場合 支店名 O九九（ゼロキュウキュウ）店 口座番号 当座預金 0319151

※本学指定の振込用紙をご利用して三井住友銀行（全国の本支店）またはゆうちょ銀行・郵便局（全国の本支店）でお振込みいただければ、お振込手数料は無料となります。振込用紙は募金推進本部までご請求ください。

- 3** ご入金のご確認ができ次第、領収書とお礼状をお送りいたします。

（備考）寄付申込書のダウンロードは、本学ホームページ(<http://www.osaka-med.ac.jp/>)の「募金事業のご案内」から、お入りください。

## ■クレジットカードでのご寄付は本学ホームページからご利用ください。



各種クレジットカードでのご寄付に対応しております。

※クレジットカードでのご寄付は、個人の方のみご利用いただけます。

※お申し込みは、本学ホームページ (<http://www.osaka-med.ac.jp/>) の「募金事業のご案内」から、お入りください。

## ■寄付(遺贈・相続財産による寄付を含む。)に関するお問合せ

学校法人大阪医科大学 募金推進本部

受付時間 / 平日9:00～16:30 住所 〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号

TEL：072-684-7243（直通） FAX：072-684-7100 E-mail：kikin@osaka-med.ac.jp



## 高槻中・高 だより

### SGH指定校に

本校は、平成28年度から5年間、文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定されました。

SGHは、高等学校等において、社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、もって、将来、国際的に活躍できるグローバルリーダーの育成を図る事業です。

本校は、「医科大学と一体化したアジア圏の人々の健康を支えるグローバルリーダーの育成」を研究開発構想に掲げ、大阪医科大学との一体的な高大連携により、グローバルヘルスに問題意識を持ち、環境・貧困・教育などさまざまな方向からアジアの人々の健康問題に取り組みグローバル人材を育成し、さらに思考力・コミュニケーション力・リーダーシップを高めることにより、バランス感覚あるグローバルマインドを育成するための教育システムを開発します。

### 英検で文部科学大臣賞を受賞

本校は、学校発展のベンチマークの一つに「中学卒業時に半数の生徒が英検2級（高校卒業程度）を取得すること」を掲げています。

平成24年度からネイティブ教員による週2〜3時間の英会話授業、夏休み中の次世代リーダー養成プログラム等により英語教育改革を進めています。また、英検は学年ごとに定めた目標級以上を取得するよう奨励し、本校を受験会場として毎回多くの生徒が受験しています。

このたび、平成27年度において中学校の部門で極めて優秀であった団体として、日本英語検定協会団体賞（中学生の部）の文部科学大臣賞を受賞しました。

### 校舎改築工事 地鎮祭を挙

3月14日、本校校舎改築工事の地鎮祭を野見神社神職により執り行いました。植木理事長をはじめ法人役員、南松原町自治会、株式会社類設計室、清水建設株式会社が出席し、工事の安全を祈願しました。「志を育む空間」をコンセプトに、平成29年3月に高校校舎・多目的アリーナが、平成30年6月に図書館・講堂が完成の予定です。



### 最先端医学教室

「最先端医学教室」は、医学の最先端で研究を進めながら医療の最前線で患者さんと向き合っておられる

大阪医科大学の先生から、研究や仕事の内容、人生哲学を聞くことを通して、生徒自身が自分の将来について考えることを目的とした大阪医科大学との連携プログラムです（対象：中学2年生全員）。



2月25日、腹腔鏡手術のスペシャリストとして国内外で著名な奥田進二特務教授をお招きし、「最先端医療を世界に発信する―才能を磨いて智慧にする―」と題した講演では、最先端のガン治療と腹腔鏡手術について、映像を駆使してわかりやすく説明していただきました。3D画像を見ながら出血させずに手術を進めていく様子が映し出されると、生徒たちからは思わず「すごい！」という声があがっていました。

先生の「世界の明日を創っていくためには、決断力と突破力、工夫と継続、主体性と協働性が必要。楽しんで努力を継続すること、日々挑戦する心意気が夢をかなえる。与えられたことをうまく使う工夫も大切。才能も磨いて工夫しないと役に立たないが、磨いて使うと智慧になる。」という示唆に富むメッセージは、生徒たちの心にしっかりと響いたと思われれます。

### 高等学校卒業式

2月6日、植木理事長をはじめ多くの来賓をお招きして高等学校卒業式を挙行。68期生252名が卒業しました。卒業生の皆様が目指す大学に入学し、社会で活躍されることを祈念しています。



### 中学校・高等学校入学式

4月7日午前、中学校入学式を挙行し、厳しい入学試験を突破した277名が本校の門をくぐりました。新入生は入学後すぐにオリエンテーションキャンプに参加し、本校での学びを深めていくために必要な意識を高めるとともに、6年間共に学ぶ仲間との交流を深めました。

また、同日午後には高等学校入学式を挙行、257名が中高六年一貫教育の中間点を迎えました。



■シーナカリンウィロート  
大学留学生の受入について



平成27年2月に本学との間で協定を締結したシーナカリンウィロート大学（タイ王国）薬学部から、平成27年12月21日（月）～平成28年1月29日（金）の間、3名の留学生を受け入れました。留学生は製剤設計学研究室（戸塚教授・男女各1名）、薬剤学研究室（永



井教授・女子1名）において研究や研究補助を行い、休日には姫路・神戸、京都などを観光し、本学学生と積極的に交流を図りました。期間の最終日には研究室での発表会や送別会などが行われました。

●シーナカリンウィロート大学との  
学術交流協定の締結について（協定書）

シーナカリンウィロート大学は、タイ王国、バンコクに本部を置くタイ王国の国立大学で1949年に設置されました。

平成27年2月10日、シーナカリンウィロート大学と大阪薬科大学は、薬学の分野での教育・研究におけるグローバル化を互いに推進することを目的として、学術交流に関する協定を締結しました。

本協定による主な相互協力事項は、次のとおりです。

- ・教員の交流
- ・共同研究
- ・セミナー・ワークショップや学会への参加
- ・特別短期学術プログラム
- ・研究および学業での学生交流（大学院生・学部生）

Academic Cooperative Agreement  
between  
Osaka University of Pharmaceutical Sciences  
and  
Srinakharinwirot University

Osaka University of Pharmaceutical Sciences, Osaka, Japan and Srinakharinwirot University, Bangkok, Kingdom of Thailand are interested in bringing a more global dimension to their curricula and research particular in the fields of Pharmaceutical Sciences.

The agreement, therefore, is made as a gesture of goodwill between the two universities and mutual benefit through the cooperative effort in the following areas:

1. Exchange of faculty members
2. Joint research activities
3. Participation in seminars/workshops and academic meetings
4. Special short-term academic programs
5. Student exchange for research and study (graduate students and undergraduate students)

This agreement shall be valid for 5 years from the date of signing. Revision or renewal of this cooperative link is subject to mutual consent of both parties.

It is expected that this agreement will lead to other more specific collaborative agreements between the two universities. Details of the implementation of any particular activities resulting from this agreement shall be negotiated between the two universities as such specific cases arise.

Either party may terminate the agreement by written notification signed by the appropriate officer of the party initiating the notice. Such notification must be received by the other party at least six months prior to the effective date of termination.

This agreement serves as the intention of both parties to work together to promote academic and educational linkage. It does not have any legal binding on the part of the universities involved.

Signed for and on behalf of  
Osaka University of Pharmaceutical Sciences  
by  
*Mitsuo Masuda*  
Professor Mitsuo Masuda  
President  
Date: 10/02/2015

Signed for and on behalf of  
Srinakharinwirot University  
by  
*Chulachera Boonyatepin, M.D.*  
Assistant Professor Chulachera Boonyatepin, M.D.  
President  
Date: 10/02/2015

■大阪薬科大学  
公開教育講座のご案内

第72回大阪薬科大学公開教育講座  
くすりの作用と副作用／薬物治療における  
安全管理のために、  
開催日：5月28日（出）14時10分～17時25分  
演題・講師：

「乳癌に対する薬物療法の現況」  
大阪医科大学 乳腺・内分泌外科  
科長 岩本 充彦

「QOL評価の基礎と応用」  
立命館大学 生命科学部生命医科学科  
教授 下妻 晃二郎  
会場・梅田スカイビル  
タワーウエスト36階会議室L・R

第73回：7月16日（出）14時10分～17時25分  
第74回：11月19日（出）14時10分～17時25分

●事前の申込みは不要。当日、受付で受講  
申込書にご記入の上、受講料（1回3,000  
円）をお支払いください。（ただし、大阪薬科  
大学卒業生の受講料は、2,000円です）

●本公開教育講座を受講された方には、大  
阪薬科大学から修了証を交付します。

薬剤師の方には希望により以下の機関の  
受講シール等をお渡しします。

- ・日本薬剤師研修センターの研修認定薬剤  
師制度による「研修受講シール」
- ・大阪府薬剤師会の「薬剤師生涯教育受講  
証」（ICカードでの受付）
- ・大阪府病院薬剤師会の「薬剤師生涯研修  
受講証」

●お問い合わせ先

大阪薬科大学公開教育講座委員会  
（臨床教育・研究支援課）  
☎（072）690011101  
fax（072）690011105

# チーム 大阪医大の 現場力

vol.1

広域医療連携センター  
ボランティア支援室  
担当課長 小篠 明



大阪医大のチームの一員である各部署を紹介するシリーズ。今回は広域医療連携センター・ボランティア支援室をご紹介します。

平成20年病院機能評価（Ver 5）において、病院ボランティアは必須項目でありました。「ボランティアについて考える会」を発足させ、平成23年「ボランティア支援

委員会」に改組し、円滑なボランティア活動ができるよう推し進められてきました。ボランティア活動の支援担当部署が明確でないとの指摘を受け、平成27年4月、患者様の立場に立ったボランティア活動を通して地域に開かれた病院の実現を目指す組織的な支援部門として広域医療連携センターに「ボランティア支援室」が創設されました。

附属病院規程に定める広く社会に貢献することを実現する為、地域に医療を提供するだけでなく地域活動に積極的に取り組み、人的交流の一環としてボランティアを受け入れ、各種活動のニーズにレスポンス長く応えたいという病院長の強い思いから創設に至りました。

## 組織化され、ますます期待される ボランティア活動

本年2月には、ボランティア一人ひとりの活動がボランティアグループ「ふれあい」の活動として組織化されました。ボランティア支援室は、ボランティア活動を更に軌道に乗せ継続できる環境づくりや仕組みづくりを整え、ボランティア活動の主役である「ふれあい」会員の全員がやりがいのある活動と参加して楽しいと実感できるコーディネートをしてまいります。また、多様なニーズに対応できる

## ボランティアの活動を法人の組織的な活動に取り込める基盤を構築し、ボランティアと地域社会と繋ぐ活動の拠点になりたい



よう関係部門と協力して、「ふれあい」を事務支援してまいります。

患者様や病院側の活動ニーズにだけ対応されるか、今後ますます「ふれあい」の活動は期待されることとなります。

我々、大学スタッフもボランティアの皆様と力を合わせて、大阪医科大学附属病院が、「魅力があつてボランティアとして活動することを誇りに思える病院」として活動の場を提供して、高度に専門分化された大学病院の中で、人と人が向き合った患者様志向の「ヒューマンサービス」を目指せるよう取り組んでいく所存です。

## 病院ボランティアグループ「ふれあい」新体制でスタート!

ボランティア  
支援室ニュース

1



本院のボランティア活動は、平成20年1月「ボランティアについて考える会」を発足させ同年11月活動を開始し丸7年が経過しました。現在、月曜日（金曜日）の午前9時～11時を中心に、毎月60名以上の方々の協力を得て、月延べ200人の活動が常時展開される程、大きな輪が広がりました。平成27年10月、本院でのボランティア活動が広く認められ信頼を得るため、ボランティアグループ（団体）の会則が制定されました。平成28年2月開催のボランティア臨時総会におきまして、大阪医科大学附属病院ボランティアグループ「ふれあい」は、会長、副会長、会計等の役員を決定され「ふれあい」会員は、患者様の立場に立ったボランティア活動を通して「地域に開かれた病院」の実現を目指し、病院の中で一つの役割を担っていただくことになりました。グループ「ふれあい」の一番大切な目標は、患者様に喜ばれるような活動をベースに、やりがいのある活動やボランティアの自己実現を目指せるような活動に発展させたいと初代会長の松田様から力強いメッセージをいただきました。

（広域医療連携センター ボランティア支援室 担当課長 小篠 明）

## 水彩画と私

絵・文 名誉教授 富士原 彰



### —春の訪れを感じる時—

我が家の庭では、甘い香りを放つ梅の花が、枝先に開き、裏山で春告げ鳥が「ホーホケキョ ケキョケキョ」と鳴く、確実に春の変化が感じられるが、まだまだ寒さ厳しく暖房器から抜けられない。

各地で春を告げる行事、大阪ではびん付け油の香りを漂わせた着物姿の約200人の力士たちが新幹線大阪駅ホームに降り立つ、大相撲春場所を告げる相撲列車の大阪入り、奈良では、春を告げる火、奈良東大寺のお水取りの本番の始まりが春の訪れを告げているが、一方、北日本では、大荒れの天候、猛吹雪の警戒警報が出ている。気持ちの上では、まだまだ春は遠い。

東西に長い日本列島、雪に閉ざされた地域では、サラサラ雪が、ザラメの雪に変わり、子供の雷用長靴が、ピンクのシューズに変わるとき、雪解けから雪割り草が顔をのぞかせるとき、季節を先取りするおしゃれ人がダウンコートをやめ、薄手のコートに着替えるとき、水仙、菜の花が咲くとき、春の感じ方は、地域、環境、天候・気温、体調の変化であったり、人それぞれによって随分違う。

春の訪れを実感する瞬間について、興味あるアンケートを目にした。桜の開花(47%)、暗くなるのが遅くなったとき(40%)。外出時に冬用のコートが必要なくなった(17%)、新入生・新社会人を見かけた(13%)、花粉症の症状が出始めた(10%)、朝起きられない・昼間の眠気(7%)。

日本人の春と言えば、やはり「桜」と言えるようだ。

雲一つない真つ青な空、大きく窓を開けると心地よいさわやかな風にも、季節の移ろいを感じる。何処からとなくほのかな香り、周囲を見渡すが、その香りがどこからなのか判然としない。沈丁花の香りである。

いつも私は、この香りを感じる時、真新しい制服をきた子供、それに付き添う胸に白い大きなコサージュを付けた黒のスーツや華やかな着物姿の母親たちに手をひかれ、近頃はほとんど夫婦同伴が多いが、日の丸の旗を掲げた校門をくぐる姿が頭に浮かぶ。毎年旧から新に変わるとき、春を感じる香りである。

# 中央手術棟 ハイブリッド手術室 (CT)

## 大阪医科大学病院 脳神経外科

case 1

黒岩敏彦 教授 川端信司 講師・病棟長



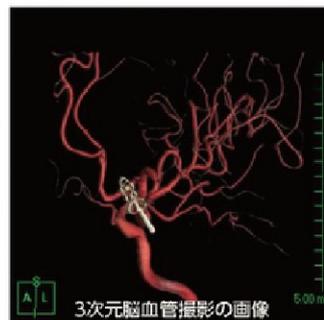
CTを背にした手術風景



操作室



術中のCT検査の様子



3次元脳血管造影の画像



### 最先端機器で安全・確実な手術を可能に

中央手術棟には、画像診断装置を設置したハイブリッド手術室が二室あります。ここではCTを設置したハイブリッド手術室をご紹介します。

CT（コンピュータ断層撮影装置）は、多くの医療機関で日常診療に用いられている機器ですが、少し広め（91㎡）にしたOP1室にこの装置を設置しましたので、手術中にCT検査が可能となりました。CTは撮影時にはレールに乗って手術台まで移動します。脳腫瘍の手術では、腫瘍を可及的に摘出するとともに神経機能に障害を与えないようにしなくてはなりません。病変がどの程度摘出できているのか？重要機能を司る脳を壊そうとしていないか？脳に何か合併症が起こっていないか？これまでは、術後にCT室まで移動して撮影しなければなりませんでした。術中にリアルタイムで分かるように

なりました。さらにこの部屋では、術中CTに“手術用ナビゲーションシステム”を組み合わせることが可能です。ナビゲーションシステムは、車に搭載のカーナビと似た手術支援装置ですが、これに用いている地図（MRIやCTなどの画像）は手術前に取得したものであり、手術が進んでいく際によりゆく景色を正確に反映しているわけではありません。このハイブリッド手術室では、常に新しい地図を簡単に短時間で得ることができ、より安心して道を進む（手術を進める）ことができるようになりました。また今回導入したCT装置は128マルチスライス撮影が可能で、通常のスライス撮影に加えて3次元脳血管撮影が可能となりますので、難易度の高い脳血管障害の手術などでも威力を発揮します。

このような最先端機器を組み合わせる新しい手術スタイルで、複雑な病変も短時間に安全・確実に手術できるようになります。

対象疾患： 脳腫瘍・脳血管障害・頭部外傷・奇形など

キーワード： ハイブリッド手術室・術中CT・3次元CT・手術用ナビゲーションシステム